

平成13(2001)年度

新潟市埋蔵文化財調査年報

新潟市埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は、新潟市埋蔵文化財センター（以下「センター」）が平成13（2001）年度に実施した事業の概要についてまとめたものである。平成12（2000）年度までは発掘調査の報告だけ掲載していたが、今後はセンターの活動を総合的に公開する必要があると判断し、内容の変更を図った。これに伴い書名も「新潟市埋蔵文化財調査年報」とした。
- 2 本書の執筆はセンター職員の渡邊ますみ・廣野耕造・諫山えりか・朝岡政康・森良子・土佐夕美子が分担し、編集を廣野が担当した。
- 3 本書で使用した写真は全てセンター職員が撮影した。
- 4 本書に掲載した調査地位置図などは原則として2,500分の1国土基本図を使用している。
- 5 各種調査に際しては関係者各位に多大な御理解と御協力、また有益な御指導を得ている。ここに記して厚くお礼申し上げます。

目 次

| | | | |
|-------------------------------|----|----------------|----|
| I 新潟市埋蔵文化財センターの概要 | 1 | 3 整理作業 | 25 |
| 1 沿革 | | (1) 東冨遺跡 | |
| 2 施設の概要 | | (2) 出土品整理・活用事業 | |
| 3 機構について | | 4 出土遺物保存処理 | 27 |
| II 平成13(2001)年度事業 | 4 | (1) 概要 | |
| 1 概要 | 4 | (2) 今年度の業務内容 | |
| (1) 予算 | | (3) 今後の展望 | |
| (2) 発掘調査 | | 5 普及活動 | 29 |
| (3) 整理作業 | | (1) にいがた歴史塾 | |
| (4) 出土遺物保存処理 | | (2) その他 | |
| (5) 普及活動 | | III 受領図書一覧 | 31 |
| (6) その他 | | | |
| 2 発掘調査 | 6 | | |
| (1) 木山遺跡範囲確認調査 | 6 | | |
| (2) 内野西土地区画整理事業予定地試掘調査 | 7 | | |
| (3) 道下遺跡範囲確認調査 | 9 | | |
| (4) 大藪遺跡範囲確認調査 | 11 | | |
| (5) 大道外遺跡範囲確認調査 | 12 | | |
| (6) 猿ヶ馬場A遺跡範囲確認調査 | 14 | | |
| (7) 丸山遺跡範囲確認調査 | 15 | | |
| (8) 城山遺跡範囲確認調査 | 16 | | |
| (9) 北浦原B遺跡範囲確認調査 | 22 | | |
| (10) 黒埼南部地区統合小学校 建設予定地試掘調査 | 23 | | |

I 新潟市埋蔵文化財センターの概要

1 沿革

新潟市埋蔵文化財センター（以下「センター」）は、主として埋蔵文化財の保存と活用を図り、市民の埋蔵文化財に対する認識を深め、市民文化の向上に資することを目的として、平成7（1995）年4月に機関設置された。建物は平成5（1993）年度をもって廃校となった新潟市立太郎代小学校の校舎を改修して使用している。主な沿革は以下のとおりである。

平成7年4月1日：新潟市埋蔵文化財センター条例施行。当初の職員体制は所長（嘱託）1、文化財専門員2、嘱託2、臨時職員2であった。

平成7年6月2日：開所式開催（出席者65名）

平成11年4月1日：組織改正に伴い、所管課が教育委員会生涯学習部生涯学習課から市長部局の総務局国際文化部歴史文化課に変わるとともに、教育長の所管事務である埋蔵文化財保護を補助執行することとなる（根拠法令：地方自治法第180条の7）。

2 施設の概要

本 体：鉄筋コンクリート3階建（1,622.98㎡）

主な用途：事務室（庶務などの事務を行う。63.36㎡）

整理室（出土品の整理などを行う。63.36㎡）

収蔵室（出土品を収蔵する。678.67㎡）

図面・写真庫（図面・写真を収蔵、写真撮影も行う。31.68㎡）

展示室（主な出土品を展示する。31.68㎡）

倉庫（調査機材等を収納するプレハブ。2棟合計105.13㎡）

3 機構について

概略は下図のとおりである。

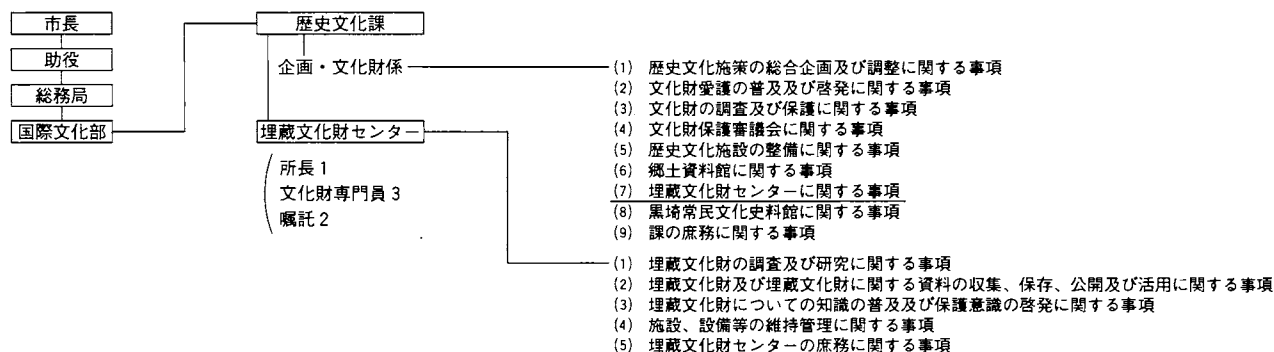


図 I-3-1 機構図

なお、埋蔵文化財に係る開発事業に関しては、1次的な窓口を企画・文化財係に置き、遺跡の有無に関する問い合わせなどに対応している。ただし、試掘や範囲確認調査が予想される事案に関しては全てセンターが担当する。また、事業規模が極めて大きいなどの理由で関係各機関等と調整を図る必要がある場合、企画・文化財係とセンターとが適宜共同で協議・調整にあたることにしている。



内水面・河川

自然堤防

砂丘

山地

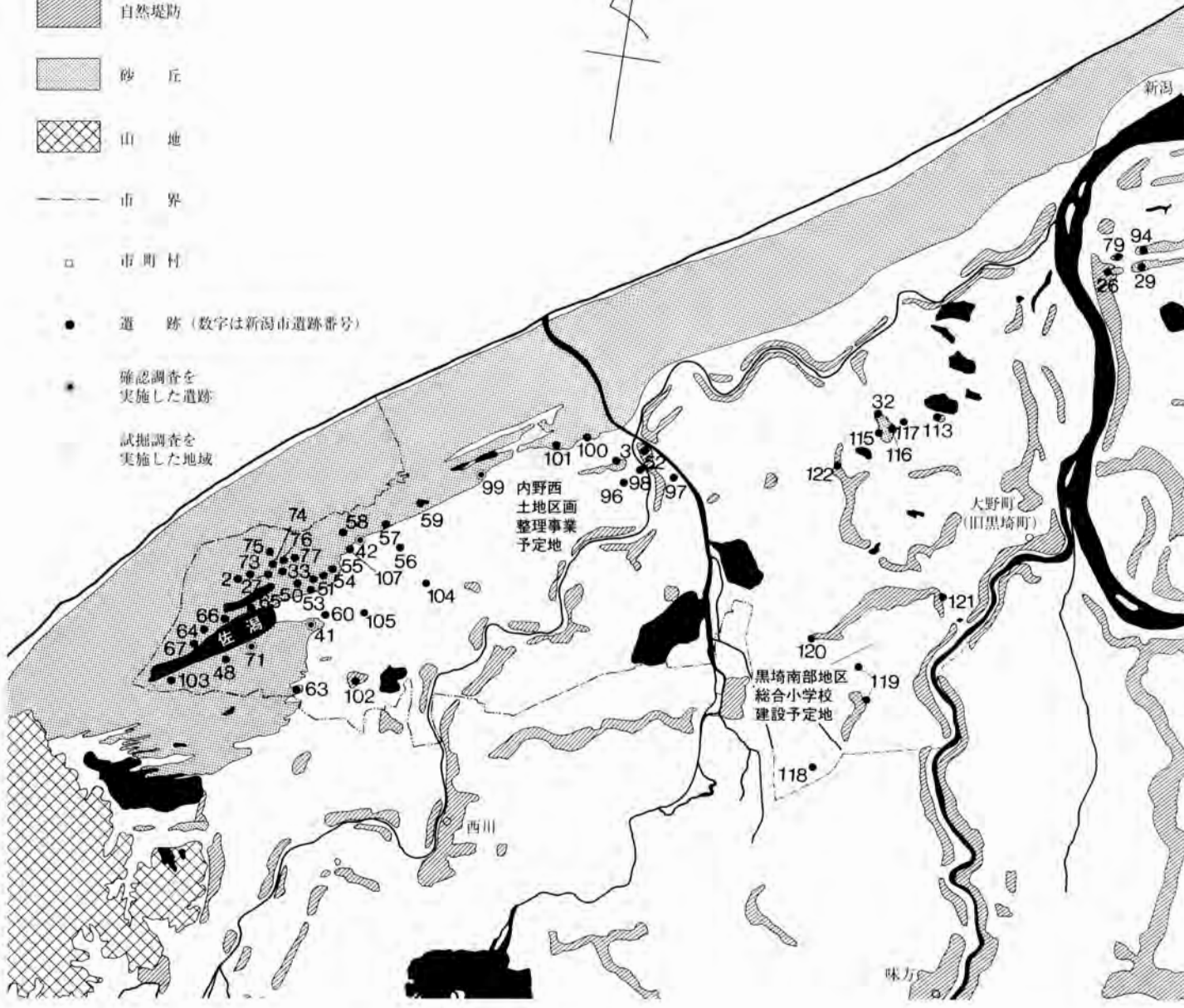
市界

市町村

遺跡 (数字は新潟市遺跡番号)

● 確認調査を実施した遺跡

● 試掘調査を実施した地域

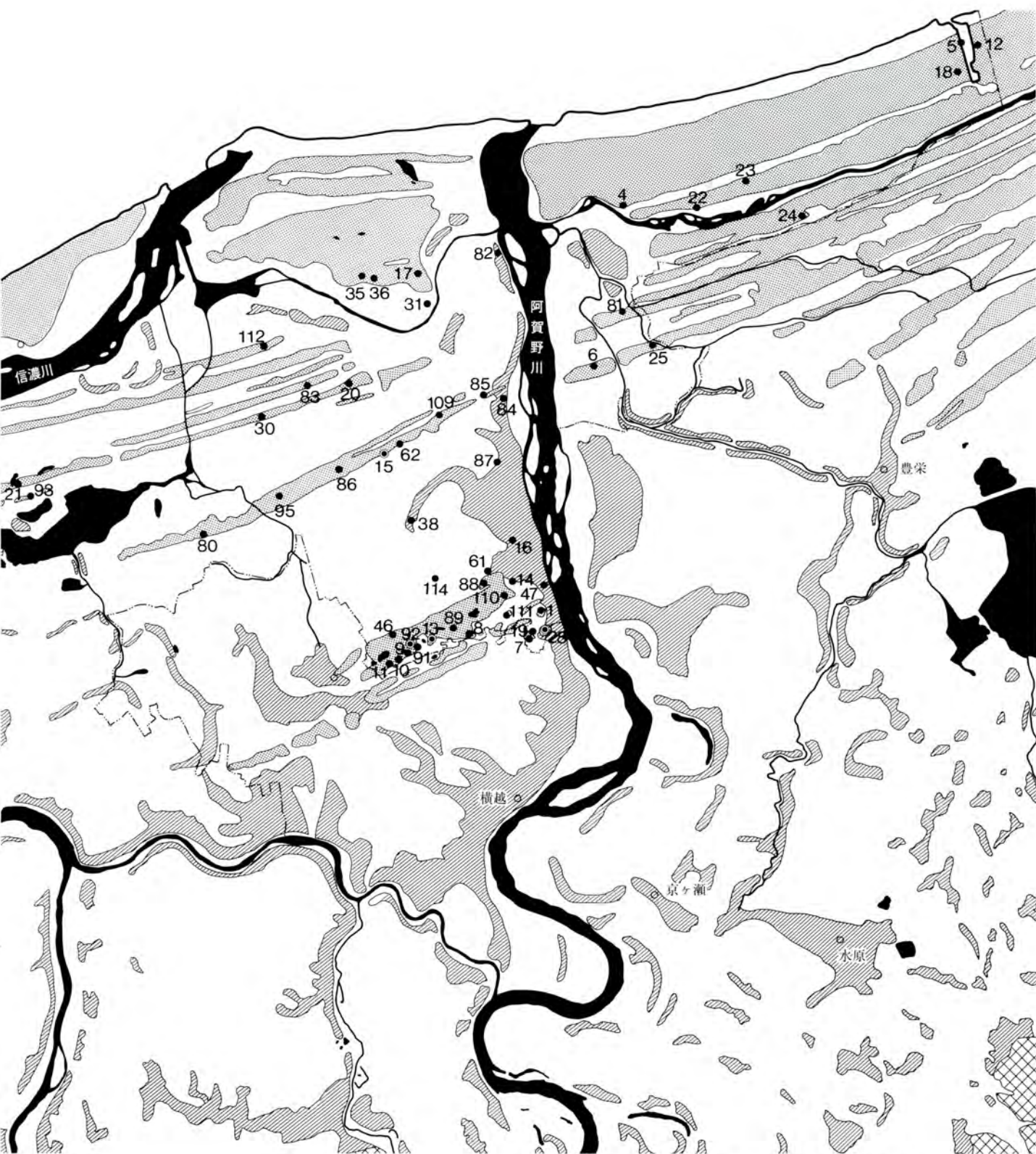


| 遺跡No. | 名称 | 時代 |
|-------|-----------|----------------|
| 1 | 中 山 | 縄文・古墳・奈良・平安 |
| 2 | 荒 所 A | 縄文 |
| 3 | 六 地 山 | 弥生・奈良・平安・鎌倉 |
| 4 | 神 谷 内 | 奈良・平安 |
| 5 | 東 郷 土 堀 代 | 奈良・平安 |
| 6 | 新 山 堀 | 奈良・平安 |
| 7 | 敷 山 堀 | 縄文・弥生・古墳・奈良・平安 |
| 8 | 茗 荷 谷 | 奈良・平安 |
| 9 | 彦 七 山 | 奈良・平安 |
| 10 | 金 塚 山 | 縄文・奈良・平安 |
| 11 | 前 山 | 奈良・平安 |
| 12 | 田 山 | 奈良・平安・鎌倉・江戸 |
| 13 | 丸 山 | 平安 |
| 14 | 直 り 山 A | 平安 |
| 15 | 横 手 馬 場 A | 平安・室町 |
| 16 | 大 池 | 平安 |
| 17 | 伊 浦 郷 | 平安 |
| 18 | せせの化学園 | 奈良・平安 |
| 19 | 神明社敷 | 平安 |

| 遺跡No. | 名称 | 時代 |
|-------|---------|-------------|
| 20 | 寺 山 | 平安 |
| 21 | 親 仁 山 | 平安・中世 |
| 22 | 阿 山 | 平安 |
| 23 | 猪 山 | 平安 |
| 24 | 上 原 橋 | 平安 |
| 25 | 染 上 山 | 平安 |
| 26 | 上 中 沢 | 伊勢 |
| 27 | 赤 塚 神明社 | 平安 |
| 28 | 城 山 | 縄文・古墳・平安・鎌倉 |
| 29 | 地 蔵 山 | 鎌倉・室町 |
| 30 | 竹 尾 | 室町 |
| 31 | 寺 町 敷 | 奈良・平安・室町・江戸 |
| 32 | 橋 立 城 跡 | 奈良・平安・中世 |
| 33 | 神 山 | 縄文・弥生 |
| 34 | 梨 ノ 木 花 | 平安 |
| 35 | 宮 庭 | 平安 |
| 36 | 沼 池 | 平安 |
| 37 | 青 山 | 平安 |
| 38 | 西 野 | 平安 |

| 遺跡No. | 名称 | 時代 |
|-------|---------|-------------------|
| 39 | 馬 路 塚 | 平安 |
| 40 | 親 路 塚 | 平安 |
| 41 | 太 敷 敷 | 縄文・古墳・室町 |
| 42 | 木 山 | 平安・鎌倉 |
| 43 | 赤 塚 | 古墳 |
| 44 | 上 塚 | 不明 |
| 45 | 大 蔵 の 塚 | 平安 |
| 46 | 北 山 | 平安 |
| 47 | 細 山 石 仏 | 室町 |
| 48 | 北 浦 原 A | 縄文・平安 |
| 49 | 石 十 ヶ 山 | 不明 |
| 50 | 扇 敷 浦 | 弥生・奈良・平安 |
| 51 | 扇 敷 池 | 弥生・平安 |
| 52 | 高 山 | 不明 |
| 53 | 前 田 | 縄文・古墳・平安・鎌倉・室町・江戸 |
| 54 | 茶 畑 池 | 縄文・平安・中世 |
| 55 | ヤマサキ | 縄文・弥生・中世 |
| 56 | 伝 念 野 毛 | 鎌倉・室町 |
| 57 | 茨 崎 根 | 奈良・室町 |

| 遺跡No. | 名称 | 時代 |
|-------|------------|-------|
| 58 | 本 山 堀 河 | 縄文 |
| 59 | 尾 池 | 鎌倉・室町 |
| 60 | 親 音 原 | 縄文 |
| 61 | 直 り 山 倉 | 平安 |
| 62 | 横 手 馬 場 B | 鎌倉・江戸 |
| 63 | 坂 田 | 平安・江戸 |
| 64 | 上 谷 内 A | 平安 |
| 65 | 崩 落 池 | 平安 |
| 66 | 上 谷 内 B | 平安 |
| 67 | 沼 | 平安 |
| 68 | 欠番, No.48内 | |
| 69 | 欠番, No.49内 | |
| 70 | 欠番, No.71内 | |
| 71 | 北 浦 原 B | 平安 |
| 72 | 欠番, No.71内 | |
| 73 | 荒 所 B | 平安 |
| 74 | ツル子 A | 平安 |
| 75 | 吹 籠 地 | 平安 |
| 76 | ツル子 B | 平安 |



図Ⅱ-1-1 新潟市周辺の地形と遺跡 (1/100,000)

| 遺跡No. | 名称 | 時代 | 遺跡No. | 名称 | 時代 | 遺跡No. | 名称 | 時代 |
|-------|------------|----------------|-------|-------------|-------------|-------|--------|-------------|
| 77 | ソル子 C | 縄文・平安 | 96 | 沢山前田 | 中世 | 115 | 緒立 (B) | 縄文・古墳・奈良・平安 |
| 78 | 矢番, No.41内 | | 97 | 高山前田 | 中世 | 116 | 緒立 (A) | 古墳・奈良・平安 |
| 79 | 島屋野 | 中世 | 98 | 高山西 | 中世 | 117 | 緒立 (C) | 縄文・古墳・奈良・平安 |
| 80 | 石仏山 | 中世 | 99 | 道下 | 中世 | 118 | 巳ノ明 | 南北朝～室町 |
| 81 | 法華塚 江戸? | | 100 | 内野潟端 A | 中世 | 119 | 釈迦堂 | 平安・南北朝～室町 |
| 82 | 津島屋の石仏 | 南北朝 | 101 | 内野潟端 B | 中世 | 120 | 木場城 | 中世 |
| 83 | 竹尾西 | 平安 | 102 | 藤藏新田 | 鎌倉・室町 | 121 | 入 | 幕近世 |
| 84 | 本所居館跡 | 室町 | 103 | 原付 | 平安 | 122 | 与左エ門屋敷 | 近世 |
| 85 | 石動 | 縄文・弥生・古墳・平安・中世 | 104 | 木山田中古墳跡土 | 中世 | | | |
| 86 | 下場 | 平安・中世 | 105 | 山崎村中古墳跡土 | 中世 | | | |
| 87 | 江口館跡 | | 106 | 木山古銭出土地 | 中世 | | | |
| 88 | 小丸山 | 縄文・平安・中世 | 107 | ニツサキ No.55内 | 中世 | | | |
| 89 | 茗荷谷墓地 | 平安 | 108 | 南浦原 | 縄文・奈良・平安・中世 | | | |
| 90 | 矢番, No.13内 | | 109 | 岡山の石仏 | 中世 | | | |
| 91 | 清水が丘 | 平安 | 110 | 松山 | 中世 | | | |
| 92 | 大道外 | 平安・中世 | 111 | 松山向山 | 平安 | | | |
| 93 | 女池稲荷 | 平安 | 112 | 山本戸 | 古墳・奈良・平安・中世 | | | |
| 94 | 愛宕の塚 | 中世・近世? | 113 | 的場 | 縄文・中世 | | | |
| 95 | 石山 | 中世 | 114 | 東園 | 縄文・古墳 | | | |

表Ⅱ-1-1 新潟市の遺跡 (平成14年3月31日現在)

Ⅱ 平成13（2001）年度事業

1 概要

(1) 予算

平成13年度埋蔵文化財センター関連の予算及び決算額については下表に示した。

| 事業名 | 予算額 | 決算見込額(※) | 増 減 | 特定財源ほか | 備 考 |
|-------------|------------|------------|-----------|---|-------------------------------|
| 管理事務 | 6,712,000 | 5,820,267 | ▲ 891,733 | | |
| 市内遺跡範囲等確認調査 | 6,192,000 | 5,518,469 | ▲ 673,531 | 文部科学省補助対象経費5,000,000円のうち 国庫補助 2,500,000円 (50%) 県費補助 1,250,000円 (25%) | |
| 出土遺物保存処理 | 8,650,000 | 8,625,897 | ▲ 24,103 | 新潟県緊急地域雇用対策基金より5,000,000円 (100%) 文部科学省補助対象経費3,625,000円のうち 国庫補助 1,812,000円 (50%) 県費補助 906,000円 (25%) | |
| 出土品整理・活用 | 7,000,000 | 6,972,000 | ▲ 28,000 | 新潟県緊急地域雇用対策基金より7,000,000円 | |
| 黒埼地区埋蔵文化財整理 | 1,931,000 | 1,663,000 | ▲ 268,000 | | 緒立遺跡（C地点）出土品等の整理 （歴史文化課予算） |
| 市場周辺遺跡発掘調査 | 13,000,000 | 12,807,401 | ▲ 192,599 | | 東開遺跡の整理（土木企画課予算） |

表Ⅱ-1-2 センター関連事業の予算及び決算

(2) 発掘調査

平成13年度は本格発掘調査がなく、開発に先立つ試掘・範囲確認調査のみ実施した。詳しくは「2 発掘調査」及び下表に記した。また、調査地の位置については図Ⅱ-1-1および表Ⅱ-1-1を参照されたい。

| | 遺跡名（遺跡番号）・地名 | 原因 | 協議開始 | | 57条の2・3提出 | 県教委からの通知 | 58条の2 | 調査期間 | 調査結果及び遺跡の取扱い |
|------------------|----------------|---------------|-----------|-----------|-----------|--------------|--------------|---------|--------------|
| | | | | | | | | | |
| 試掘・確認調査 | 木山遺跡（42） | 作業小屋建設 | H12.11.14 | H12.11.14 | H13. 2.22 | H12.11.15 | H13. 4.11 | 遺跡かからず。 | |
| | 内野西土地区画整理事業予定地 | 土地区画整理事業 | H13. 2.15 | | | H13. 4.19 | H13. 4.23～27 | 本文参照。 | |
| | 道下遺跡（99） | 移動通信用無線基地局の設置 | H13. 3. 1 | H13. 3. 1 | H13. 3.14 | H13. 4.10 | H13. 4.13・19 | 本文参照。 | |
| | 大藪遺跡（41） | 移動通信用無線基地局の設置 | H13. 4. 4 | H13. 4. 4 | H13.5. 23 | H13. 4.4 | H13. 4. 4 | 遺跡かからず。 | |
| | 大道外遺跡（92） | 宅地造成 | H13. 5.23 | | | H13. 6. 1 | H13. 6. 4～7 | 遺跡かからず。 | |
| | 猿ヶ馬場A遺跡（15） | 駐車場造成 | H13. 8.10 | H13. 7.25 | H13.11. 6 | H13. 7.25 | H13. 7.30 | 遺跡かからず。 | |
| | 丸山遺跡（13） | 個人住宅建設 | H13. 8.15 | H13. 8.15 | H13. 9.10 | H13. 8.15 | H13. 9.25 | 遺跡かからず。 | |
| | 城山遺跡（28） | 公園造成 | H12. 7.11 | | | H13. 9. 4 | H13. 9. 4～22 | 本文参照。 | |
| | 北浦原B遺跡（71） | 作業小屋建設 | H13. 8.31 | H13. 8.31 | H13. 9.14 | H13. 9.11 | H13.10. 9 | 遺跡かからず。 | |
| 黒埼南部地区統合小学校建設予定地 | 学校建設 | H13. 5.10 | | | H13. 9. 7 | H13.10. 9～15 | 遺跡かからず。 | | |
| 立会い調査 | 古屋敷遺跡（31） | 露天駐車場 | H13. 4. 6 | H13. 8.23 | H13. 9.11 | | H13. 9.25 | | |
| | 茨曾根遺跡（57） | 道路 | H13. 8.23 | H13. 8.28 | H13. 9.11 | | H13.10.30 | | |
| | 岡山の石仏（109） | 下水道工事 | H13.12.25 | H13.12.26 | H14. 1.25 | | H13.12.26 | 遺跡かからず。 | |

表Ⅱ-1-3 平成13年度 新潟市埋蔵文化財調査等一覧

(3) 整理作業

東開遺跡（平成12（2000）年度発掘調査）の整理作業を実施した。本年度と平成14（2002）年度の2ヶ年で作業を完了し、発掘調査報告書を刊行する予定である。また、的場遺跡・小丸山遺跡・緒立遺跡の出土品再整理を合わせて行った。詳細は「3 整理作業」に記した。

(4) 出土遺物保存処理

国・県の補助を得て、山木戸遺跡及び緒立遺跡（C地点）出土木製品の保存処理を外部業者に委託した。また、山木戸遺跡ほか出土の木製品について、保存処理前の図化を、同じく外部業者に委託して実施した。「4 出土遺物保存処理」に詳しく記した。

(5) 普及活動

歴史文化課全体の事業である「にいがた歴史塾」の一環として、市民を対象に遺跡見学会などを実施した。また、センター見学者に対する説明や、郷土史研究団体等の要請に応じて各種講演を行った。「5 普及活動」に詳しく記した。

(6) その他

職員の資質向上や情報収集のため、先進地視察や各種研修会への出席も積極的に行った。各種会議への出席も含め、詳しくは下表のとおりである。

| 研修内容・出張先等 | 年月日 | 出張者 | 備考 |
|--|-----------------|-----------|--------------------------------------|
| 奈良文化財研究所飛鳥藤原京調査部（奈良県橿原市） ・元興寺文化財研究所（奈良県生駒市） | H13. 5.15～16 | 諫山えりか | 出土遺物の調査・分析のため |
| 市町村文化行政事務担当者研修会（県庁） | H13. 5.31～ 6. 1 | 廣野耕造・朝岡政康 | 主催：新潟県教育庁 |
| 新潟県立歴史博物館（長岡市） | H13. 7.19 | 諫山えりか | 保存処理済遺物の展示・管理について視察 |
| 埋蔵文化財担当職員実務研修 遺跡写真撮影研修 （荒川町宮の腰C遺跡） | H13. 7.27 | 諫山えりか | 主催：新潟県教育委員会 |
| 所沢市埋蔵文化財調査センター・東松山市埋蔵文化財 センター・川本町出土文化財管理センター（埼玉県） | H13. 8. 9～10 | 廣野耕造 | 先進地視察 |
| ホームページ作成研修（市役所） | H13. 8.28 | 廣野耕造 | 主催：新潟市 |
| 富山県小矢部市桜町遺跡ほか | H13.11. 7 | 諫山えりか | 主催：市公園水辺課 蔵岡公園にかかる視察 |
| 関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修協議会 （千葉市） | H13.11.21～22 | 朝岡政康 | 主催：関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修協議会・千葉県教育委員会 |
| 埋蔵文化財担当職員等講習会（埼玉県さいたま市） | H14. 1.17～18 | 廣野耕造 | 主催：文化庁 |

表Ⅱ-1-4 平成13年度 センター職員が参加した研修・視察一覧

| 内容・開催地等 | 年月日 | 出席者 | 備考 |
|------------------------------|-----------|-----------|--------------|
| 積算基準に関する検討会（県庁） | H13. 4.13 | 廣野耕造 | 主催：新潟県教育庁 |
| 五市中東蒲田埋蔵文化財担当者連絡協議会（万代市民会館） | H13. 4.26 | 廣野耕造 | |
| 発掘調査の積算基準に関する検討会（県庁） | H13. 6. 1 | 廣野耕造 | 主催：新潟県教育庁 |
| 蔵岡公園協議 | H13. 6.13 | 廣野耕造 | 市公園水辺課ほかとの協議 |
| 蔵岡公園協議 | H13. 6.19 | 廣野耕造 | 市公園水辺課ほかとの協議 |
| 文化財保護審議会 | H13. 6.27 | 細川所長・廣野耕造 | 主催：新潟市教育委員会 |
| 蔵岡公園協議 | H13. 7. 4 | 廣野耕造 | 市公園水辺課ほかとの協議 |
| 発掘調査の積算基準に関する検討会（県庁） | H13. 7. 6 | 廣野耕造 | 主催：新潟県教育庁 |
| 五市中東蒲田埋蔵文化財担当者連絡協議会（新津市地域学園） | H13. 9.28 | 廣野耕造 | |
| 文化財保護審議会（市役所） | H13.10. 1 | 細川所長・廣野耕造 | 主催：新潟市教育委員会 |
| 蔵岡公園設計作業検討委員会（亀田郷土地改良区大江山工区） | H13.10. 5 | 廣野耕造 | |
| 蔵岡公園協議 | H13.11.16 | 廣野耕造 | 市公園水辺課ほかとの協議 |
| 蔵岡公園設計作業検討委員会（亀田郷土地改良区大江山工区） | H13.11.22 | 廣野耕造 | |
| 蔵岡公園設計作業検討委員会（亀田郷土地改良区大江山工区） | H13.12.18 | 廣野耕造 | |
| 新潟市都市計画審議会幹事会（市役所） | H14. 1.29 | 廣野耕造 | 蔵岡公園関係 |
| 新潟市都市計画審議会（白山会館） | H14. 2. 5 | 廣野耕造 | 蔵岡公園関係 |

表Ⅱ-1-5 平成13年度 センター職員が出席した会議一覧

2 発掘調査

(1) 木山遺跡範囲確認調査

調査地：木山字前田858番2 調査面積：12.0㎡（調査対象面積661.0㎡の約1.8%）

調査期間：平成13年4月11日(水) 調査担当：廣野耕造

遺跡の概要 木山遺跡は、市内赤塚地区の御手洗湯北岸からのびる新砂丘Ⅱ－b列の南斜面上に立地している。昭和43（1968）年までには遺跡であることが知られており、昭和54（1979）年度に新潟市教育委員会（以下「市教委」）が実施した分布調査でも中世の遺物が採集されることが判明している。平成8（1996）年度・平成9（1997）年度に範囲確認調査が実施されたが、遺構・遺物は検出されていない。なお、今回の調査地（図Ⅱ-2-1中の①）は平成9年度調査地（図Ⅱ-2-1中の②）の西隣となる。

調査に至る経緯 地権者による農作業小屋建設に係る発掘届に対し、新潟県教育委員会（以下「県教委」）から確認調査の指示があったため、地権者の協力を得て実施した。

調査の方法及び結果 調査対象地内に2m×2mの試掘坑を3ヶ所設定した。それぞれ0.1㎡級の小型バックホーで現地表面下2mに達するまで慎重に掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認を行った。いずれの試掘坑でも最下底は明青灰色のシルトであり、その上に粘土、表層には後世に盛られた砂が堆積していた。遺構・遺物は一切検出されなかった。

まとめ 調査地は木山遺跡の周知範囲内であるが、今回の開発にあたっては全く問題ないと判断された。



図Ⅱ-2-1 調査地周辺図（S=1/3,000）



写真Ⅱ-2-1 木山遺跡 調査地全景（南から）



写真Ⅱ-2-2 木山遺跡 試掘坑調査終了状況

(2) 内野西土地区画整理事業予定地試掘調査

調査地：内野潟端2322-1ほか

調査面積：828.0㎡（調査対象面積271,680.0㎡の約0.3%）

調査期間：平成13年4月23日(月)～27日(金)

調査担当：廣野耕造

調査地の概要 調査地は新砂丘Ⅲの南側に広がる沖積地であり、北東側で内野潟端B遺跡と隣接している。

調査に至る経緯 「内野西土地区画整理事業」に先立つ埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、平成11（1999）年度から事業者及び市の担当課と文化財保護側とで協議してきた結果、①事業予定地の一部は内野潟端B遺跡の隣接地であるため、発掘届を提出して県教委からの指示に従うこと、②その他の部分も遺跡の有無を確認するための試掘調査を行うこととし、関係者相互で同意した。なお①については平成12（2000）年度末に確認調査を実施した。



写真Ⅱ-2-3 内野西土地区画整理事業予定地内試掘調査地（D区 北東から）

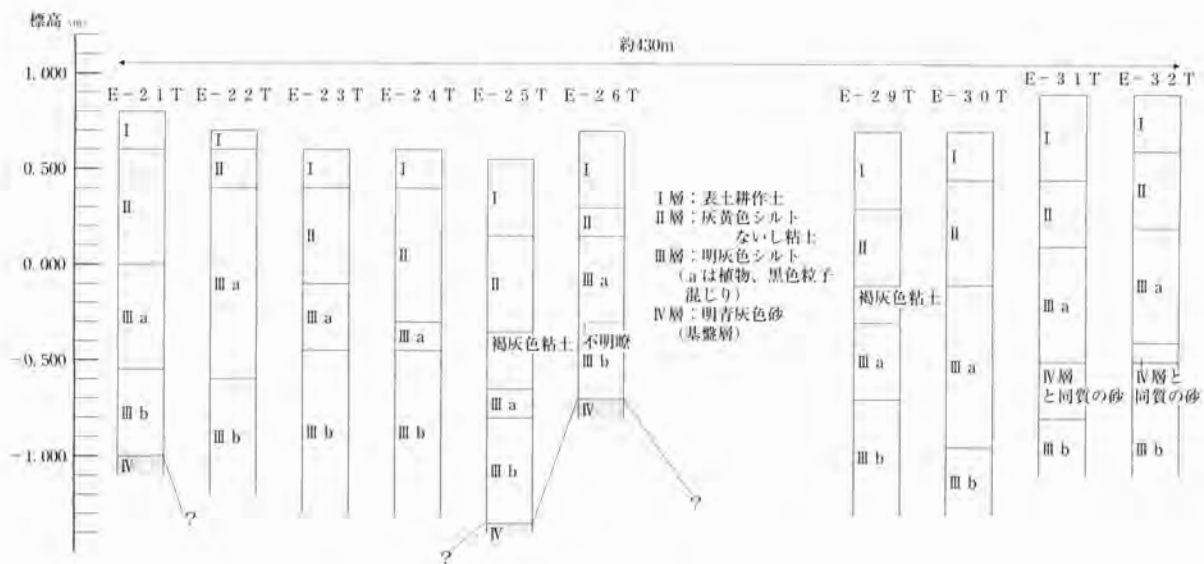


図Ⅱ-2-2 内野西土地区画整理事業予定地全体図（S=1/5,000）

A～C：平成12年度調査地

D・E：平成13年度調査地

■：試掘抗



図II-2-3 E区 南北方向 土層柱状図（垂直方向のみS=1/40）

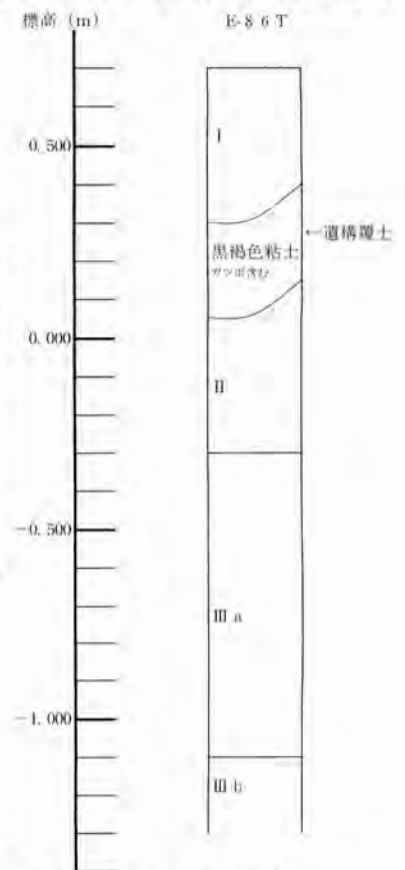
調査の方法及び結果 便宜上、調査対象地を広通川で2分し、西側をD区、東側をE区とした（平成12年度調査でA区～C区を設定・調査済みのため。図II-2-2参照）。40mメッシュを基本として2m×6mの試掘坑を設定し、それぞれD区のをD-1T、D-2T・・・、E区のをE-1T、E-2T・・・などと呼称した。試掘坑の数は最終的に138ヶ所に達した。掘削は0.4㎡級のバックホーを使用し、慎重に掘り下げながら遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は地表面より2mまでを目途とした。

土層（図II-2-3参照）を観察すると、現在の地表面は全域にわたってほぼ平坦であるが、基盤層には最大1m程度以上の高低差があり、しかも波状に高低を繰り返していることがわかった。E-86Tでは北東から南西方向に走る幅約1.6mの溝状遺構が検出された（図II-2-4・5及び写真II-2-4参照）。覆土中から近世陶器片2点（青磁壺頸部破片及び染付碗口縁部。写真II-2-5参照）が出土して、また、木杭が打設されていることから近世の用排水路遺構と推定される。ほかは遺構・遺物とも一切検出されなかった。

まとめ 調査地内の土層堆積状況から、当地は長く低湿な状態にあったと推定され、遺跡立地の条件を備えていない。また、近世以外は遺構も遺物も検出されておらず、今回の調査地は（近世以前の）埋蔵文化財包蔵地とは認められない。よって、開発にあたっては埋蔵文化財保護上特に問題がないと判断された。



図II-2-4 E-86Tの近世遺構検出状況（概略 S=1/80）



図II-2-5 E-86Tの土層柱状図（垂直方向のみS=1/20）



写真Ⅱ-2-4 E-86Tの近世遺構の断面（東から）



写真Ⅱ-2-5 E-86Tの近世遺構
より出土した遺物
(1：青磁壺 2：染付椀 S=1/3)

(3) 道下遺跡範囲確認調査

調査地：中権寺333番1ほか

調査面積：33.0㎡（調査対象面積414.0㎡の約8%）

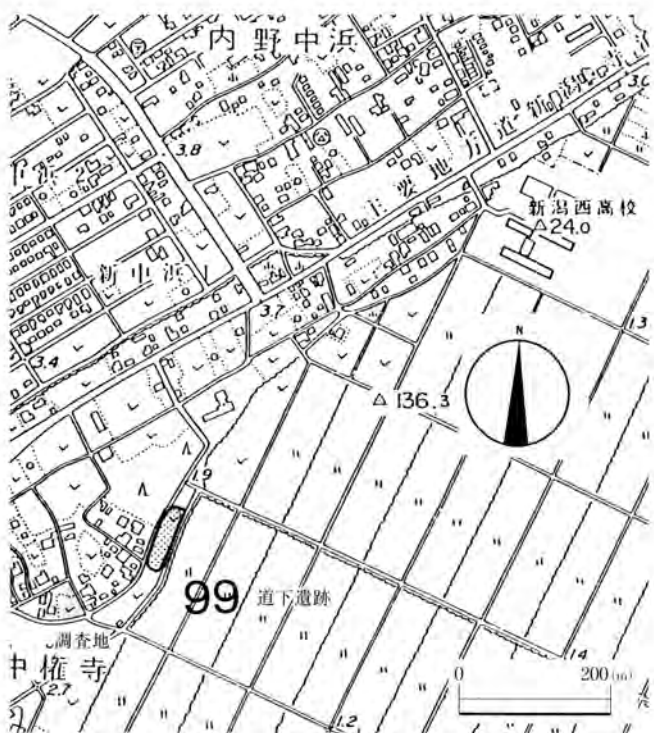
調査期間：平成13年4月13日(金)及び19日(木)

調査担当：朝岡政康

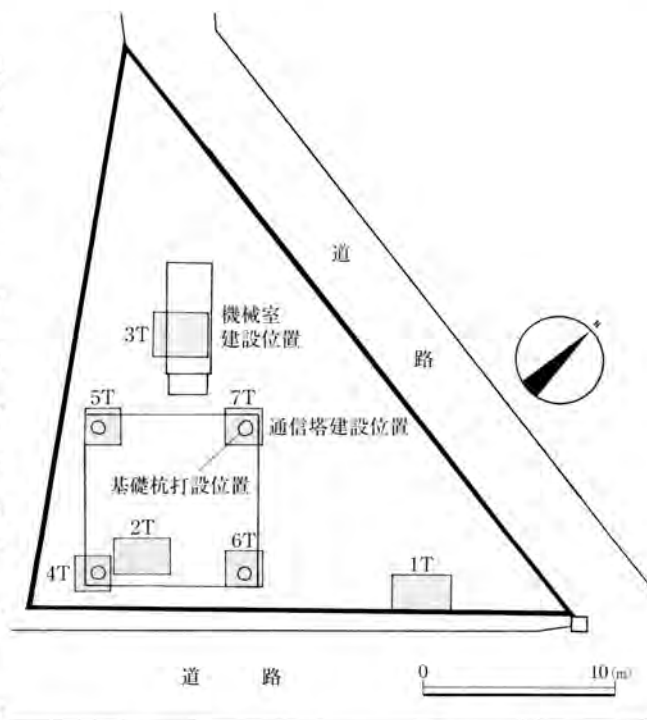
遺跡の概要 道下遺跡は新砂丘Ⅱ-c列の砂丘列南斜面に立地する。昭和60（1985）年の分布調査に際して中世の土師質土器や近世の陶器が採集されたことにより、遺跡として約2,100㎡が周知化された。平成4（1992）年に踏査が行われているが、遺物の散布は認められなかった。

調査に至る経緯 道下遺跡隣接地における自動車・携帯電話用無線基地局建設に係る照会に対し、市は発掘届の提出とそれに対する県教委の指示を受けて範囲確認調査に着手した。

調査の方法及び結果 調査地の現状は畑であり、休耕していた。基地局建設場所を中心に試掘坑を7ヶ所設定し（図Ⅱ-2-7参照）、0.25㎡のバックホーを用いて掘削した。遺物を検出したときは人力により周辺を精査し、遺構・遺物の有無や出土位置・層位を確認し、図面及び写真による記録を行った。掘り下げ深度は基盤層まで、または現地表面下2mまでとした。



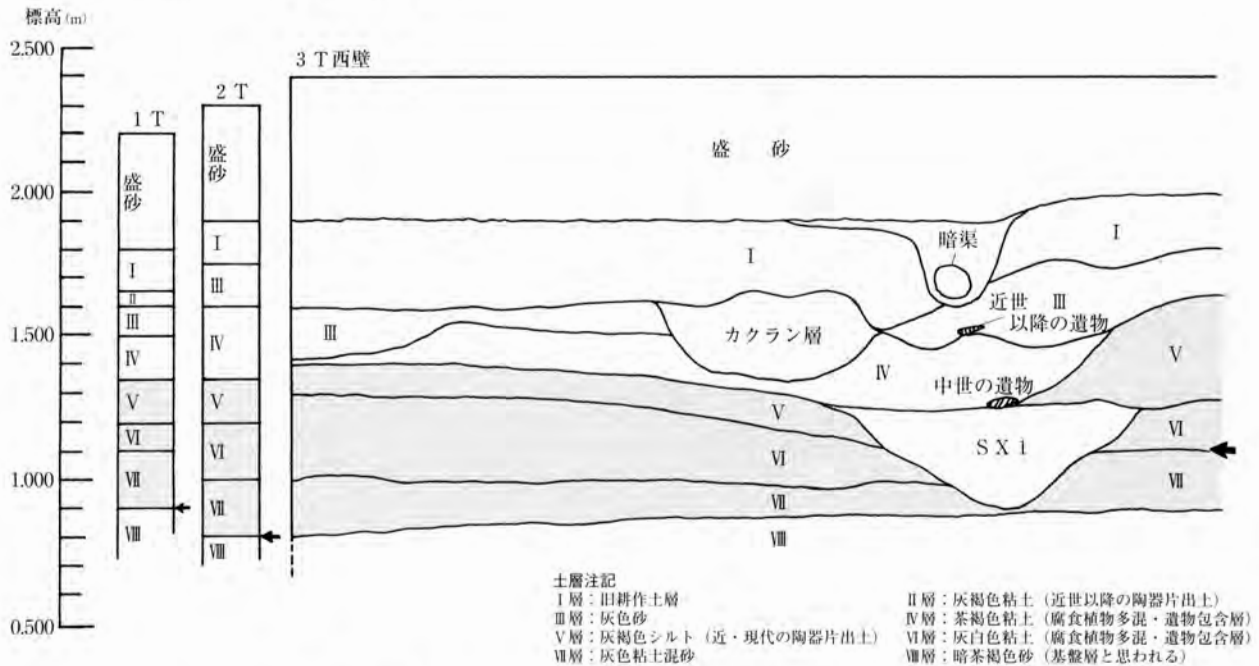
図Ⅱ-2-6 調査地周辺図（S=1/10,000）



図Ⅱ-2-7 試掘坑配置図（S=1/400）
太枠内：調査対象地

3 Tにおいて遺構（SX1）・遺物を検出した。遺物は中世の珠洲焼甕片・すり鉢片、越前焼甕片のほか、近世以降の陶器片も少量検出された。時期不明の漆器椀も1点出土した。

遺物包含層が確認されたが、中世と近世以降の遺物が共に出土するという状況であった。包含層には腐食植物（いわゆるガツボ）が多量に混入しており、流水等の影響により形成された層であることも考えられる。従って検出された遺構は攪乱されている可能性もある。遺構から遺物は検出されず、また包含層の様相から時代は特定できない（図Ⅱ-2-8参照）。



図Ⅱ-2-8 土層柱状図（垂直方向のみS=1/30 ←は湧水レベル）

なお、湧水が激しく、試掘坑拡張による隣接道路損壊を避けるため、遺構自体の調査は行わなかった。

上記調査結果により事業者と協議を行った結果、通信塔建設工事による遺物包含層の破壊を回避するため、現地表面に1.2mほど盛土することで合意した。通信塔を支える支柱打ち込み箇所には、遺構及び遺物が存在しないことが確認されている。以上のことを受け、県教委は工事に際して市教委が立会いを行う旨を事業者宛に書面にて通知した。立会いの結果、掘削が遺物包含層まで達しないことが確認された。

まとめ 当該調査地は道下遺跡の一部であるが、調査の結果から考えると、より高所に遺跡の中心があるように思われる。今回は事業者の協力により、開発によって遺跡が破壊されることはなかった。



写真Ⅱ-2-6 道下遺跡 調査地全景（東から）



写真Ⅱ-2-7 土層堆積状況（3 T西壁）

(4) 大藪遺跡範囲確認調査

調査地：赤塚字稲場2614番地 調査面積：33.0㎡（調査対象面積611.0㎡の約5.4%）

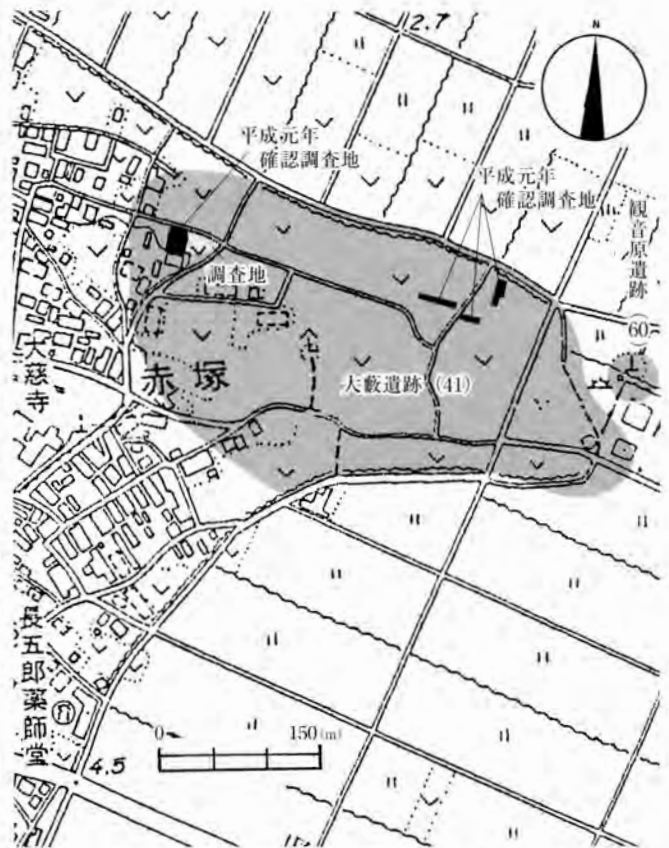
調査期間：平成13年4月20日(金) 調査担当：朝岡政康

遺跡の概要 大藪遺跡は坂田砂丘（新砂丘I-f列）が沖積面に舌状に張り出した砂丘上に立地し、周知化面積94,000㎡と広い。昭和29（1954）年には遺物出土（弥生土器・土師器・須恵器）の記録が見られ、古くから遺跡として知られている。平成元（1989）年に新潟市史編さん事業の一環で市民参加の発掘調査を行っている。この発掘調査では縄文時代の遺物や、奈良・平安時代の遺構・遺物、鎌倉初期～戦国時代にわたる遺構・遺物が多数検出された。以降、確認調査や踏査、立会い調査が幾度か行われている。

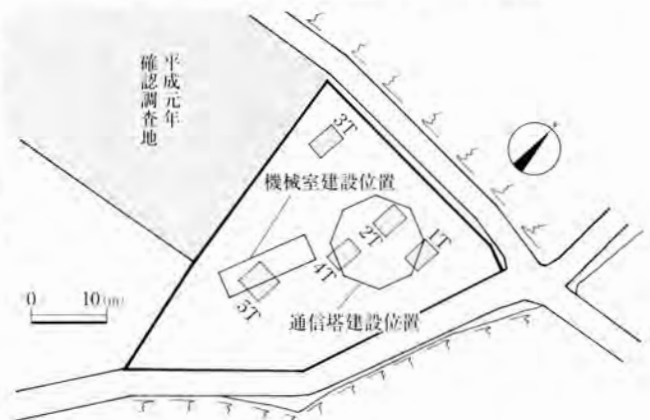
調査に至る経緯 自動車・携帯電話用無線基地局建設に係る照会に対し、市は当該地が大藪遺跡の周範囲内に当たること、また市史編さん事業で実施した発掘調査地に近いことから、発掘届を提出してもらい、それに対する県教委の指示を受けて範囲確認調査に着手した。

調査の方法及び結果 基地局建設場所を中心に、試掘坑を5ヶ所設定した（図Ⅱ-2-10参照）。掘削には0.25㎡のバックホーを用いて遺構・遺物等の有無の確認に努めながら、基盤層が出るまでか、もしくは掘削深度が2mを超えないように掘り下げた。掘り下げ終了後土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。調査の結果、全ての試掘坑において遺構及び遺物は全く検出されなかった。

まとめ 調査の結果から、当該地における事業の実施は問題がないことを市教委から県教委に報告した。これを受け県教委から事業者宛に工事に当たっては慎重に実施するよう、書面で通知された。



図Ⅱ-2-9 調査地周辺図 (S=1/7,000)



図Ⅱ-2-10 試掘坑配置図 (S=1/1,000)
太枠内：事業予定地



写真Ⅱ-2-8 大藪遺跡 調査地全景（北東から）



写真Ⅱ-2-9 土層堆積状況（2T南壁）

(5) 大道外遺跡^{おれみとせと}範囲確認調査

調査地：丸山字居村428番ほか

調査面積：107.0㎡（調査対象面積2,009.1㎡の約5.3%）

調査期間：平成13年6月4日(月)～7日(木)

調査担当：廣野耕造

遺跡の概要 大道外遺跡は亀田砂丘後列の南斜面上に立地しており、昭和60（1985）年の分布調査で須恵器^{すゑ}坏などが発見されている。

調査に至る経緯 地権者より不動産業者を通じ、大道外遺跡の隣接地における宅地開発について事前協議があった。市は確認調査が必要と判断し、発掘届の提出を依頼、県教委の指示を待たず確認調査に着手した。

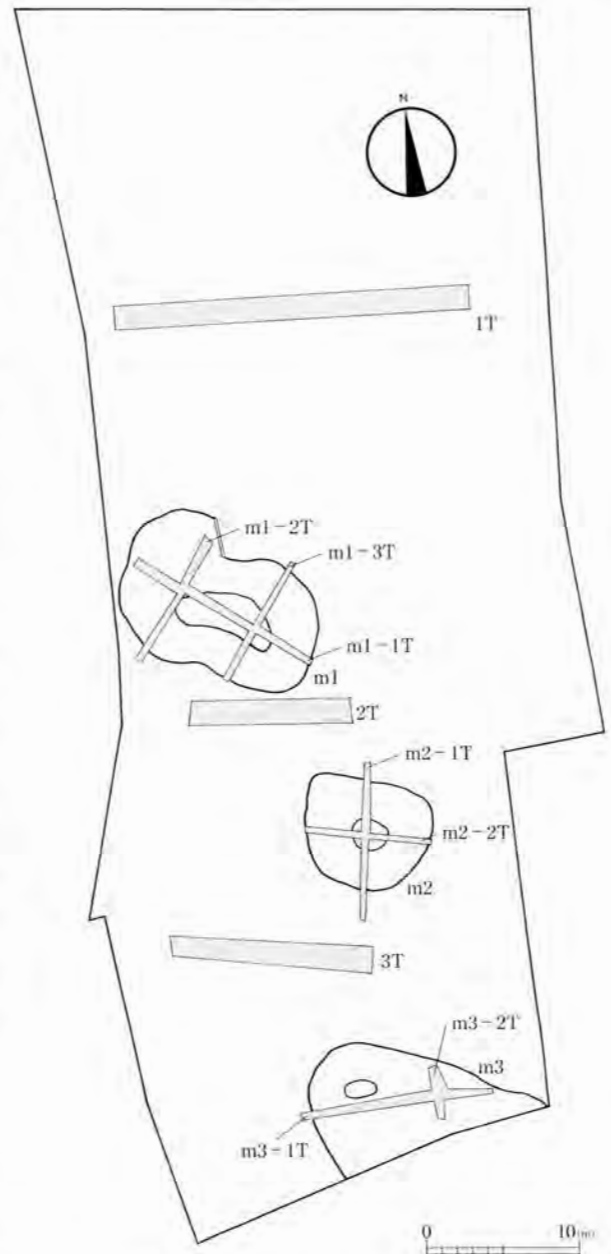
調査の方法及び結果 調査地対象地を東西に横切る形で3本の試掘坑（1T～3T）を設定し、調査した。また、調査地内には性格不明のマウンド状地形が3基存在し、それらを北からm1、m2、m3と呼称し、別途試掘坑を入れた。試掘坑はマウンドの形状に応じて十字形に設定し、それぞれm1-1T、m2-2Tなどとした（図Ⅱ-2-12参照）。各試掘坑は人力と0.25㎡級のバックホーを併用して掘削した。掘削の結果、表土直下から基盤層に至るまで砂層であった。比較的上層から近現代の陶磁器などが検出されている。1～3Tでは最近掘られた廃棄坑から近現代の陶磁器やガラスなどゴミの類が出土したのみであった。m1～m3では、盛砂



写真Ⅱ-2-10 大道外遺跡 調査区内状況
(m2付近：南から)



図Ⅱ-2-11 調査地周辺図（S=1/2,500）



図Ⅱ-2-12 試掘坑配置図（S=1/500）

と考えられる層の中から近現代の遺物が発見され、これらが現代の築山であるという付近住民の証言を裏付けている。なお、m3-2T東端部付近の盛砂上層から時期不明の土師器小片が出土しており、盛砂自体が近隣の他遺跡に由来する可能性がある。

まとめ 今回の調査地は大道外遺跡の範囲内とは考えられない。



写真Ⅱ-2-11 m1 調査終了状況（東から）



写真Ⅱ-2-12 m2 調査終了状況（東から）



写真Ⅱ-2-13 m1 調査終了状況（東端部付近 北から）

(6) 猿ヶ馬場A遺跡範囲確認調査

調査地：猿ヶ馬場1丁目364番8 調査面積：20.0㎡（調査対象面積246.97㎡の約8.1%）

調査期間：平成13年7月30日(月) 調査担当：廣野耕造

遺跡の概要 猿ヶ馬場A遺跡は、阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ-2列に対比される石山砂丘の南斜面上に立地する。早くも昭和9（1934）年には弥生土器や須恵器の出土地として知られていた。現在では周辺が宅地化されて範囲は不明である。平成9（1997）・10（1998）・11（1999）・12（2000）年度と、近年頻繁に確認調査が実施されており、平成11年度の調査では中近世の遺物（珠洲焼片・近世陶器片等）や遺構がわずかに検出されている。

調査に至る経緯 当該地の駐車場造成について遺跡に関する照会があり、市としては猿ヶ馬場A遺跡の隣接地であるため発掘届の提出を依頼、工事着工まで間がないため県教委の指示を待たず確認調査を実施した。

調査の方法及び結果 調査地内の四隅及び中央部に2m×2mの試掘坑を5ヶ所設定した。それぞれ0.1㎡級の小型バックホーを用いて基盤層ないし現地表面下2mに達するまで慎重に掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認を行った。いずれの試掘坑でも最下底は基盤層と考えられる明灰黄色砂であり、その上に暗灰色～明灰色粘土が堆積し、表層には灰黄色砂や耕作土がみられた。遺構・遺物は一切検出されなかった。

まとめ 調査地は猿ヶ馬場A遺跡の隣接地であるが、範囲内とは考えられない。



図Ⅱ-2-13 調査地周辺図（S=1/2,500）



写真Ⅱ-2-14 猿ヶ馬場A遺跡 調査地全景（北西から）



写真Ⅱ-2-15 土層堆積状況

(7) 丸山遺跡範囲確認調査

調査地：丸山ノ内善之丞組字宮前138番 調査面積：12.0㎡（調査対象面積311.28㎡の約3.9%）

調査期間：平成13年9月25日(火)

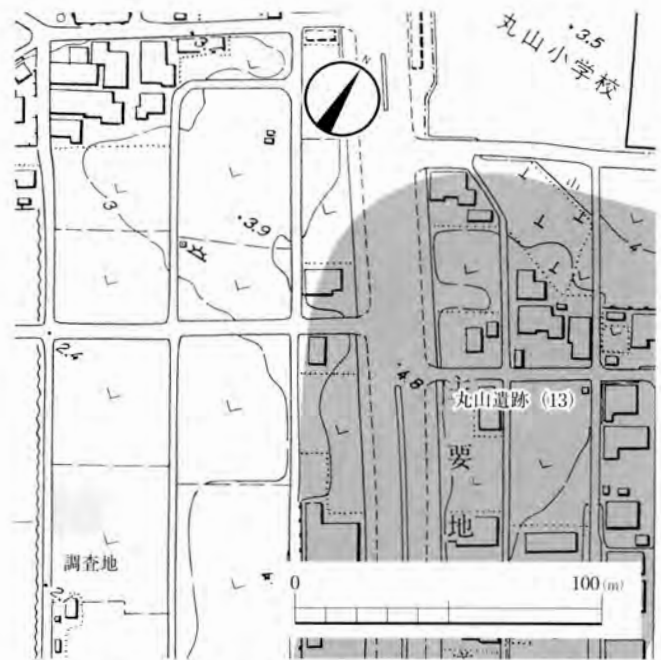
調査担当：廣野耕造

遺跡の概要 丸山遺跡は、亀田砂丘後列の砂丘列が南へ舌状に張り出した部分に立地している。丸山小学校の裏手で土器が採集されることが昭和36（1961）年には知られていたが、昭和45（1970）年ころの砂取りで砂丘は削平されている。平成12（2000）年に周知範囲内の北東部付近で範囲確認調査が実施されたが、遺構・遺物とも一切検出されなかった。

調査に至る経緯 調査地は遺跡の西側隣接地にあたるため、個人住宅建設に伴う発掘届により確認調査を実施することとなった。

調査の方法及び結果 調査地の北端及び南端付近の計2ヶ所に2m×3mの試掘坑を設定し、0.25㎡級のバックホーにより、遺構・遺物の有無を確認しながら現地表面下2mの深さを目途に慎重に掘削、その後人力によって精査した。土層は表土・耕作土の下はほとんど全て砂層であり、いずれの試掘坑でも基盤層（明灰色砂）が検出された。遺物・遺構とも一切検出されなかった。

まとめ 調査地は丸山遺跡の隣接地であるが、範囲内とは考えられない。



図Ⅱ-2-14 調査地周辺図 (S=1/2,500)



写真Ⅱ-2-16 丸山遺跡 調査地全景（南西から）



写真Ⅱ-2-17 土層堆積状況

(8) 城山遺跡範囲確認調査

調査地：蔵岡字城山209ほか

調査面積：470.0㎡（調査対象面積33,000.0㎡の約1.4%）

調査期間：平成13年9月5日(水)～22日(土)

調査担当：廣野耕造

調査員：諫山えりか

遺跡の概要 城山遺跡は、亀田砂丘前列に属する残丘状の小砂丘に立地する。

昭和43（1968）年ころ、現在の周知範囲の北西部付近で砂取りによって多量の須恵器・土師器が出土したのをはじめ、縄文時代から中世にわたる複合遺跡として知られていた。

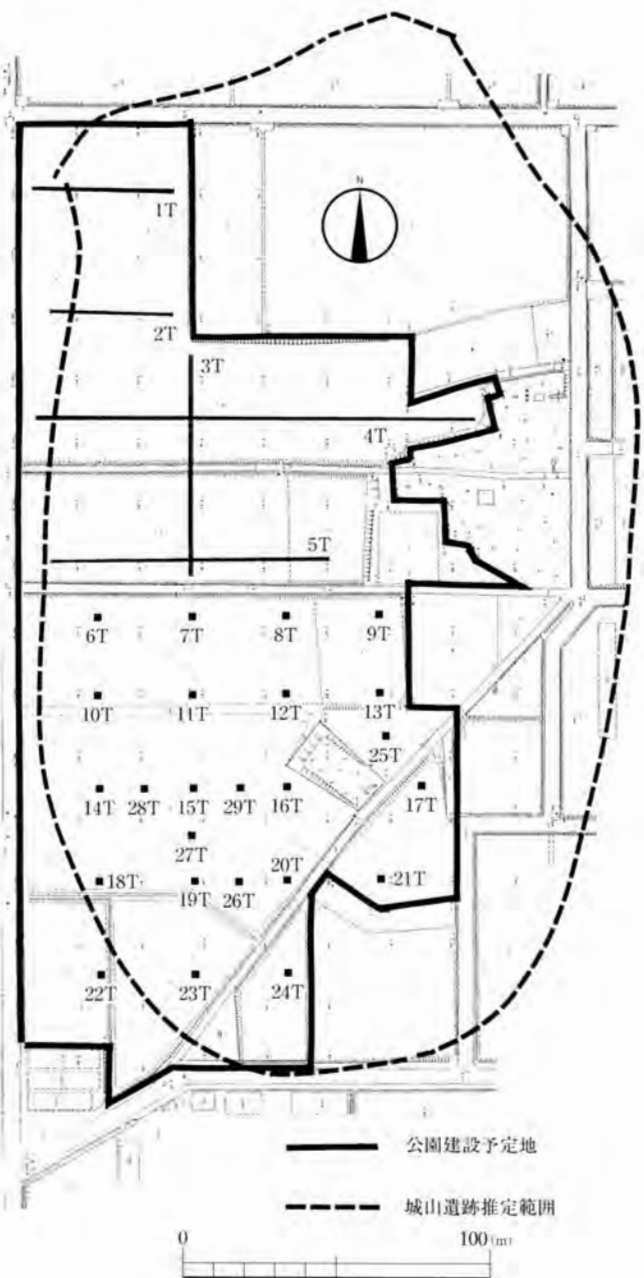
その後、県営圃場整備事業に先立つ試掘・確認調査が市教委により平成6（1994）・7（1995）年度に城山遺跡を含む付近一帯で実施された。その結果、城山遺跡については周知範囲北側の農道拡幅工事にかかる部分約260㎡が記録保存のため平成8（1996）年度に本格調査され、縄文時代前期から中世に至る幅広い時期の遺物や、縄文時代中期末～後期初頭に属する土坑などの遺構が検出された。

調査に至る経緯 市は平成6年度当時、すでに当該地を買収のうえ墓苑公園として整備する方針であったが、その後市教委が周辺で発掘調査を実施した結果、新潟市には数少ない縄文時代の遺跡が良好に残っていることがわかり、遺跡と自然を生かした公園作りに計画変更したうえ、基本構想について検討を重ねてきた。

平成12（2000）年度に至ってようやく公園建設計画が具体化し、歴史文化課と公園建設担当課とが協議



図II-2-15 調査地周辺図（S=1/5,000）



図II-2-16 試掘坑配置図（S=1/2,500）

した結果、遺跡保護を前提とした実施設計を行うことを目的として、範囲確認調査を実施することとなった。

また、公園完成後は原則として発掘調査不可であるため、今回の調査が事実上最後になることを踏まえ、既往の調査で明確にならなかった部分について、より詳細な知見を得ることも目的の一つとした。

調査の方法及び結果 遺跡の旧地形や遺構の有無及び性格等を把握するため、平成6・7年度調査の結果、比較的遺跡の残りがよいと推定された調査対象地北半部には南北・東西方向に直行する長大な試掘坑を5本設定した。

一方、ある程度削平を受けていると予想される南半部には、2m×2mの試掘坑を最終的に24ヶ所設定した(図Ⅱ-2-16参照)。掘削は0.4mのバックホーと人力を併用した。

調査結果は現在も整理中のため、ここでは概要を述べるにとどめる。

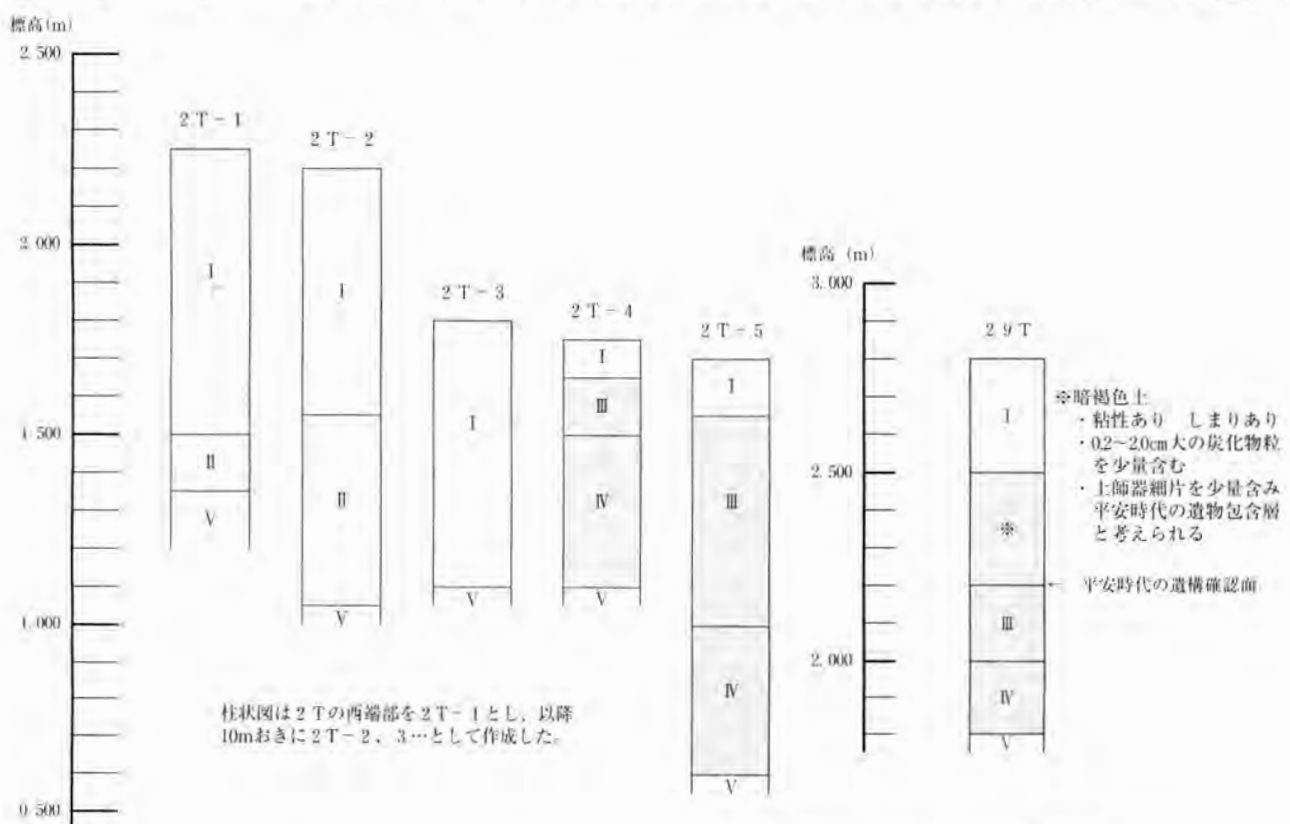
基本的な層序は、表土・耕作土の下に2～3層にわたる遺物包含層があり、最下層が砂丘の基盤層である(図Ⅱ-2-17・18参照)。

遺構については、平安時代の井戸が4Tで検出された(写真Ⅱ-2-21)。また、同じく平安時代のピット・土坑が29Tを中心にまとまっている(写真Ⅱ-2-23)。

遺物は、縄文土器が1T・2Tを中心として出土している。2Tからは特に多くの縄文土器が出土し、合わせて炭化物の集積も検出されている。時期は縄文時代前期前葉から後期前葉にわたっている。

また、平安時代の須恵器・土師器は4T・15T・29Tを中心として遺構及び遺物包含層からまとめて発見されている(詳しくは図Ⅱ-2-19・20、表Ⅱ-2-12参照)。

その他、4T東端部を中心として、地震による噴砂現象の痕跡が検出された(写真Ⅱ-2-22)。現地調査指導をいただいた新潟大学積雪地域災害研究センターの高濱信行助教授(職名は当時のもの)によれば、これは昭和39(1964)年の新潟地震に伴うものである可能性が高いとのことである。この噴砂による遺構の



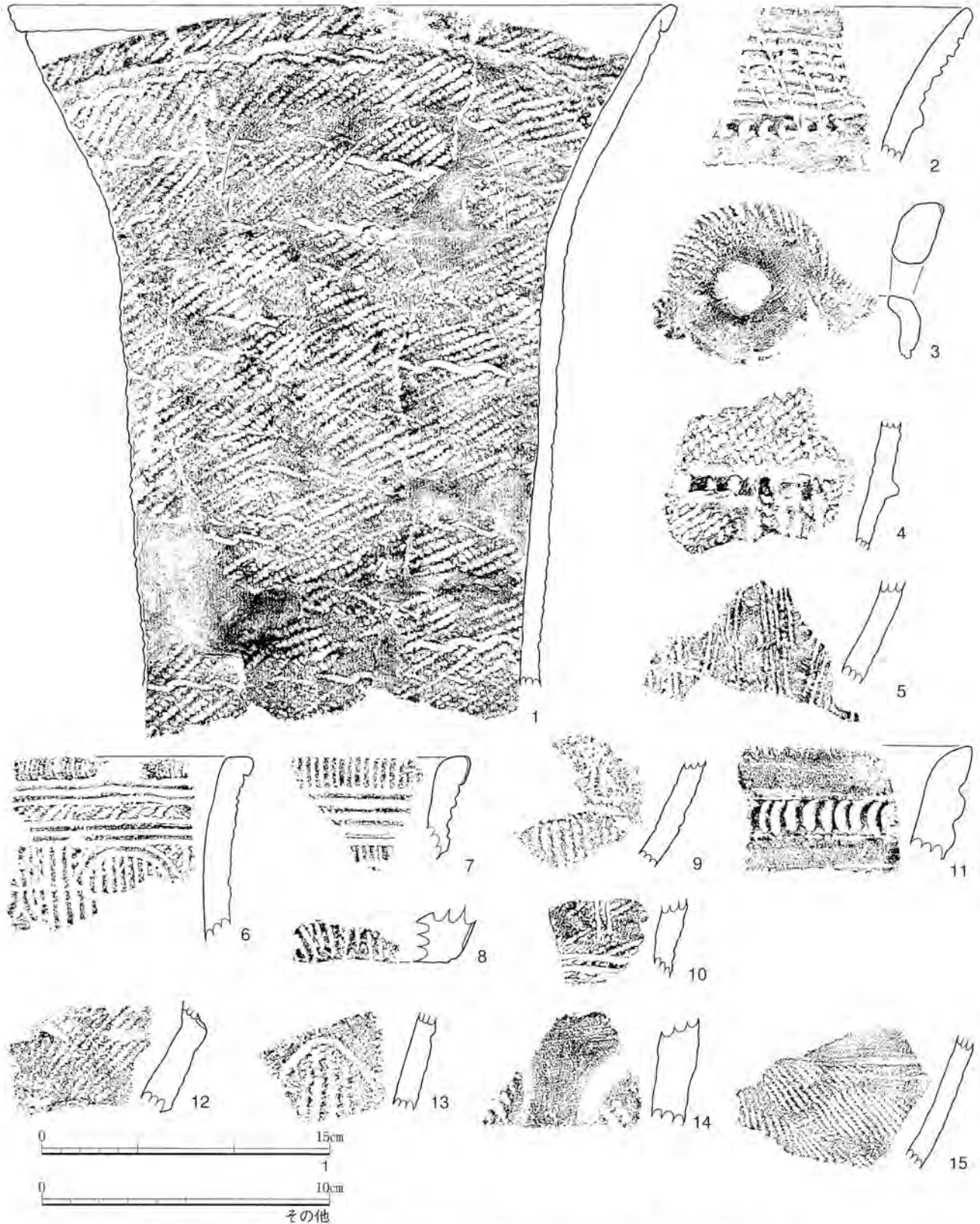
図Ⅱ-2-17 2Tの土層柱状図
(アミ部は遺物包含層を示す 垂直方向のみS=1/20)

図Ⅱ-2-18 29Tの土層柱状図
(アミ部は遺物包含層を示す 垂直方向のみS=1/20)

破壊と遺物の現位置からの移動が観察された。

全体の傾向としては、調査地の北半部では縄文時代の遺物が多く、南半部では平安時代の遺物や遺構が多く検出された。このことにより、これまで不明だった時代ごとの空間利用のあり方が、ある程度明らかになったといえる。

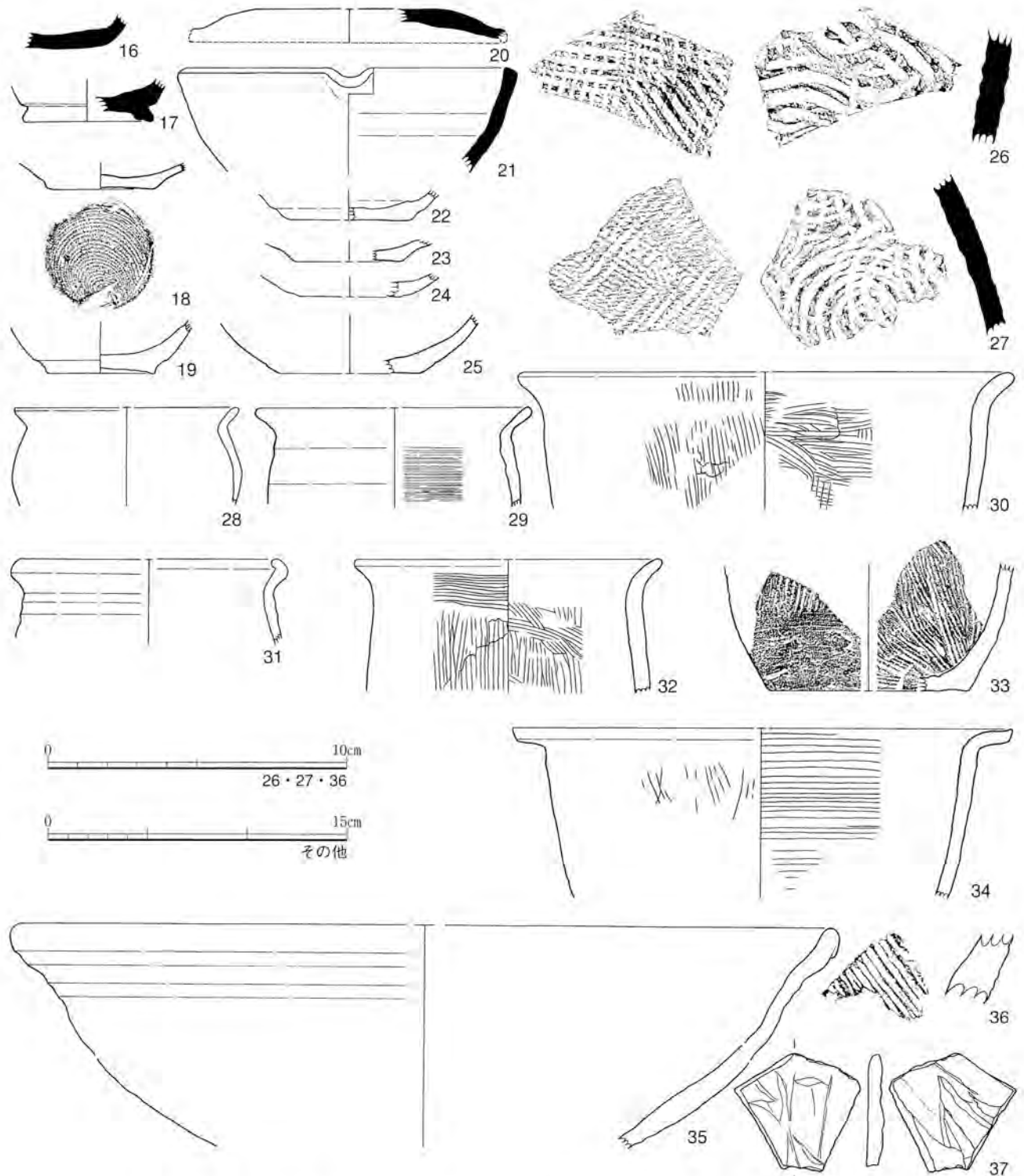
まとめ 調査前の予測どおり、主として縄文時代及び平安時代の遺物・遺構が良好な状態で残っているため、市の公園建設担当課と歴史文化課で再度協議のうえ、公園建設にあたっては調査で得られた所見をもとに、



図Ⅱ-2-19 城山遺跡確認調査出土遺物(1) (1はS=1/3、ほかはS=1/2)

文化庁の定めた基準に従って一定量以上の保護層を設け、遺物包含層や遺構面を保存することとなった。

また、公園内に設けられる予定の展示施設では、今回の調査結果も含め、城山遺跡を初めとした蔵岡地区の遺跡群について市民に分かりやすく説明し、理解を深めてもらう工夫をすることとした。



図Ⅱ-2-20 城山遺跡確認調査出土遺物(2) (26・27・36はS=1/2、ほかはS=1/3)

| 図示 番号 | 出土 位置 | 出土 層位 | 種別 | 器種 | 遺存状態 | 胎土 | | 備考(文様の特徴など) |
|----------|----------|----------|------|----|-------------------|------------------------|--|---|
| | | | | | | 色調 | 混入物等 | |
| 1 | 2T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部(13/36) ~胴部 | にぶい黄色 | 径1mm~2mmの黄鉄鉱を多く含む | 11径23.0cm、残存高23.7cm 肥厚した11唇部外面にLR縄文 その他LR結節縄文 |
| 2 | 4T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部破片 | にぶい黄褐色 | 径1mmの石英を多量に含む 径5mmの長石をわずかに含む | 11縁直下に沈線による格子文 半載竹管状工具先端による連続刺突 |
| 3 | 2T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部把手破片 | にぶい黄褐色 | 径1mm以下の海綿骨針・金雲母を少量含む | 部状工具先端による連続刺突 |
| 4 | 2T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部破片 | 灰黄色 | 径2mm程度の白色粒子・金雲母を少量含む | 粘土紐貼付 |
| 5 | 2T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部破片 | にぶい橙色 | 微細な金雲母片を少量含む | 木目状燃系文 |
| 6 | 2T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部破片 | にぶい褐色 | 微細な石英及び径1mm程度の礫・白色粒子を少量含む | 11唇部に部状工具先端による連続刺突 ほか半載竹管状工具での半隆起線による縦横の区画 |
| 7 | 2T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部破片 | にぶい黄褐色 | 径1mm程度の金雲母を少量含む | 部状工具先端による連続刺突 半載竹管状工具による半隆起線 |
| 8 | 2T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 底部破片 | にぶい褐色 | 径1mm以下の白色粒子を少量含む | 半載竹管状工具による半隆起線 |
| 9 | 4T | II | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部破片 | 外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色 | 径1mm~3mmの粒子を多く含む 金雲母をわずかに含む | 半載竹管状工具による半隆起線 |
| 10 | 2T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部破片 | 褐色 | 径1mm程度の石英を少量含む | 縦横の沈線 |
| 11 | 2T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部破片 | にぶい橙色 | 径1mm程度の白色粒子・礫を多く含む 径1mm程度の石英を少量含む | 半載竹管状工具による押し引き |
| 12 | 1T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部破片 | にぶい橙色 | 径2mm程度の礫を多く含む 径1mm程度の白色粒子及び金雲母を少量含む | 横からの連続刺突を横位にめぐらせる LR縄文 |
| 13 | 2T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部破片 | にぶい黄色 | 径1mm以下の礫・白色粒子・金雲母を少量含む | 浅い沈線による曲線的区画及びRL縄文 |
| 14 | 1T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部破片 | にぶい黄褐色 | 径1mm程度の黒雲母・径2mm以下の礫を多く含む | 浅い沈線による曲線的区画及び縄文 |
| 15 | 3T | IV | 縄文土器 | 深鉢 | 胴部破片 | 褐色 | 径2mm程度の石英を少量含む | ミガキ及びRL縄文 |

表Ⅱ-2-1 城山遺跡確認調査出土遺物観察表(1)

| 図示 番号 | 出土 位置 | 出土 層位 | 種別 | 器種 | 寸法(cm) | | | 遺存状態 | 胎土 | | 焼成 | 備考 |
|----------|----------|----------|---------------|----------|--------|-------|-------|----------|---------------------|---|------|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | 色調 | 混入物等 | | |
| 16 | 29T | III | 須恵器 | 坏 | | | | 底部破片 | 灰白色 | 径1mm以下の灰色粒子・白色粒子を多く含む | 不良 | 底部回転へラ切り 回転方向不明 |
| 17 | 4T | II | 須恵器 | 瓶 | | 6.4 | (2.2) | 底部18/36 | 外面:黒色 内面:灰色 | 径1mm以下の灰色粒子を多量に含む 径1mm程度の白色粒子を少量含む | 普通 | |
| 18 | 4T | II | 土師器 | - | | 5.5 | | 底部ほぼ定形 | にぶい黄褐色 | 径1mm以下の黒色粒子・石英を多く含む 黒雲母・金雲母を少量含む | 普通 | 底部回転系切り |
| 19 | 15T | I | 土師器 | - | | 5.4 | | 底部完形 | 外面:にぶい黄褐色 内面:黄灰色 | 径1mm以下の石英・白色粒子を少量含む | 普通 | |
| 20 | 15T | III | 須恵器 | 坏蓋(16.2) | | | | 縁部破片 | 灰黄色 | 径1mm以下の金雲母を少量含む | 普通 | |
| 21 | 15T | III | 須恵器 | 片口鉢 | 16.2 | | (5.3) | 11縁部7/36 | 灰色 | 径1mm~2mm程度の白色粒子を多く含む | 普通 | 片口先端部が摩滅している |
| 22 | 15T | II | 土師器 | - | | (6.0) | | 底部11/36 | 黄灰色 | 径1mm以下の石英・金雲母を多く含む | 普通 | |
| 23 | 29T | I | 土師器 | - | | (5.4) | | 底部9/36 | にぶい黄褐色 | 石英・黒雲母の粒子を多く含む | やや不良 | 底部回転系切り |
| 24 | 15T | II | 土師器 | - | | (5.0) | | 底部7/36 | 褐色 | 径1mm程度の礫を少量含む | 普通 | |
| 25 | 29T | I | 土師器 | - | | (7.0) | | 底部8/36 | 浅黄褐色 | 径1mm以下の灰色・白色粒子を多く含む 黒雲母をわずかに含む | 不良 | 内外面ミガキ |
| 26 | 15T | III | 須恵器 | 甕 | | | | 体部破片 | 灰色 | 径1mm~3mm程度の白色粒子を少量含む | 普通 | 外面:格子状タタキ 内面:同心円状当て具痕 |
| 27 | 29T | III | 須恵器 | 甕 | | | | 体部破片 | 灰色 | 径1mm以下の白色粒子を多く含む 径2mm程度の白色礫をわずかに含む | 普通 | 外面:格子状タタキ 内面:同心円状当て具痕 |
| 28 | 4T | II | 土師器 | 小甕(11.2) | | | | 11縁部4/36 | 灰黄褐色 | 径3mm程度の小礫及び径1mm以下の金雲母を少量含む | 普通 | 11縁部内面に炭化物付着 |
| 29 | 4T | II | 土師器 | 小甕(13.7) | | | | 11縁部6/36 | 褐色 | 径1mm以下の礫を多く含む 径2mm程度の小礫を少量含む | 普通 | 内面:ハケ |
| 30 | 4T | II | 土師器 | 長甕(24.5) | | | | 11縁部5/36 | 褐色 | 径1mm以下の灰色粒子・白色粒子・金雲母を多く含む 径3mm~4mmの小礫を少量含む 石英をわずかに含む | 普通 | 外面:11縁部ヨコナデ・ハケ、体部ハケ 内面:11縁部ヨコナデ、体部ハケ |
| 31 | 4T | 攪乱 | 土師器 | 小甕(18.0) | | | | 11縁部2/36 | にぶい黄褐色 | 径1mm~2mm程度の石英を少量含む | 普通 | 体部外面にスス付着 |
| 32 | 4T | II | 土師器 | 長甕(15.4) | | | | 11縁部6/36 | 外面:黒色 内面:にぶい黄褐色 | 灰色粒子・黒色粒子・金雲母を多く含む 径4mm程度の小礫をわずかに含む | 普通 | 内外面とも11縁部ヨコナデ、体部ハケ |
| 34 | 4T | II | 土師器 | 長甕(25.2) | | | | 11縁部3/36 | 浅黄褐色 | 径1mm以下の灰色粒子・白色粒子・長石を多く含む 金雲母をわずかに含む | やや不良 | 内外面とも11縁部ヨコナデ、体部ハケ 佐渡産か |
| 33 | 4T | II | 土師器 | 甕(10.0) | | | | 底部4/36 | にぶい赤褐色 | 径1mm程度の礫・白色粒子を少量含む | 普通 | 外面:ロクロケズリ 内面:ハケ |
| 35 | 4T | II | 土師器 | 罎(41.0) | | | | 11縁部6/36 | にぶい黄褐色 | 径1mm以下の金雲母を多く含む | 普通 | 体部外面に炭化物付着 |
| 36 | 4T | II | 中世陶器 (珠洲焼) | 甕 | | | | 体部破片 | 灰色 | 径1mm以下の白色粒子を少量含む | 普通 | 外面タタキ |
| 37 | 2T | IV | 石製品 | 砥石 | | | | 完形 | | | | 最大長6.0cm 最大幅6.3cm 最大厚0.9cm 砂岩製? |

表Ⅱ-2-2 城山遺跡確認調査出土遺物観察表(2)



写真Ⅱ-2-18 城山遺跡 公園建設予定地全景（南西から）



写真Ⅱ-2-21 平安時代の井戸枠検出状況（4 T 北から）



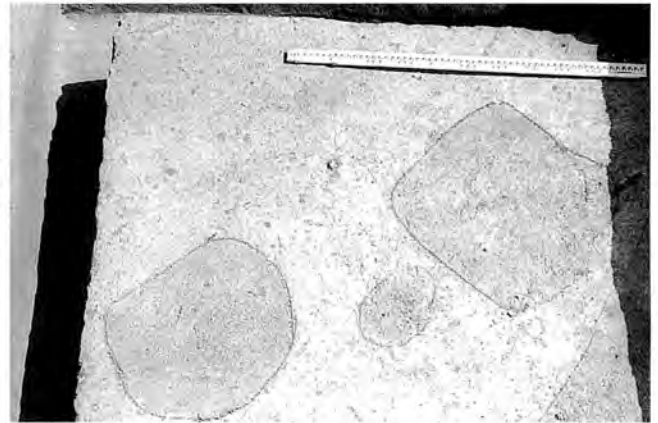
写真Ⅱ-2-19 縄文土器ほか出土状況（2 T 南東から）



写真Ⅱ-2-22 噴砂による攪乱（4 T 東端部）



写真Ⅱ-2-20 土層堆積状況（2 T-5 北壁）



写真Ⅱ-2-23 平安時代の遺構検出状況（29 T）



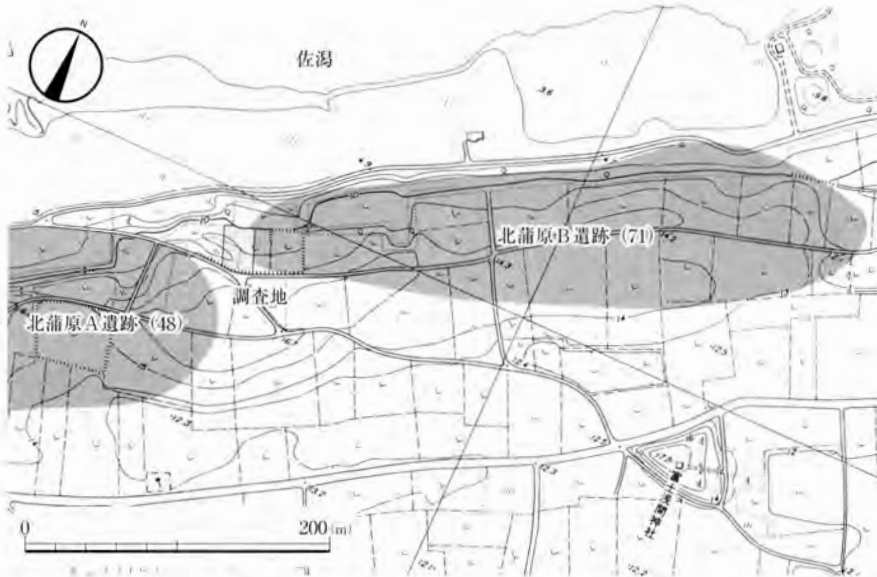
写真Ⅱ-2-24 土層堆積状況（29 T 東壁）

(9) 北浦原^{きたうらはら}B遺跡範囲確認調査

調査地：赤塚字北浦原5073番地 調査面積：6.2㎡（調査対象面積58.32㎡の約10.6%）

調査期間：平成13年10月9日(火) 調査担当：諫山えりか

遺跡の概要 北浦原B遺跡は、市内赤塚地区の坂田砂丘（新砂丘I-f列）の佐潟に面する北斜面上に立地



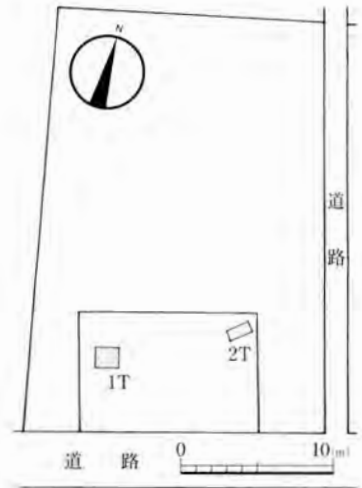
図Ⅱ-2-21 調査地周辺図（S=1/5,000）

している。昭和55（1980）年度に市教委が実施した分布調査で、平安時代の須恵器や中世の珠洲焼系の甕の破片などが採集された。

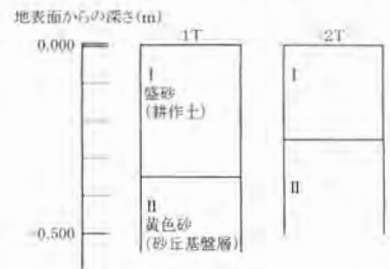
調査に至る経緯 現地のハーブ農園地権者より提出された作業小屋建設に係る発掘届に対し、県教委の指示で市教委主体の確認調査を実施した。現地は急斜面であり、また、作付け済みの作物に対する影響を最小限にとどめるため、試掘坑設定箇所について地権者に現地確認を依頼し、協力を得た。

調査の方法及び結果 調査対象地内に約3㎡の試掘坑を2ヶ所設定し（図Ⅱ-2-22）、0.1㎡級のバックホーで約10cmずつ砂丘基盤層が確認されるまで掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認を行った結果、2ヶ所とも1層はビニールなどが混じった盛砂が堆積し、2層に地表面から深さ30～35cm程度で砂丘基盤砂層と思われる黄色砂が確認された（図Ⅱ-2-23）。市教委刊行の『昭和56年度新潟市文化財調査報告書』では、北浦原B遺跡について「3mぐらい下の深さに包含層が見られることが多い」とあるが、通常包含層相当層としてみられる黒褐色砂層は認められず、遺構・遺物は確認されなかった。

まとめ 調査地は遺跡周知範囲内とされていたが、過去に畑を開墾した際に包含層が削平されたものと判断した。



図Ⅱ-2-22 試掘坑配置図（S=1/800）



図Ⅱ-2-23 1T・2Tの土層柱状図（垂直方向のみS=1/20）



写真Ⅱ-2-25 北浦原B遺跡調査状況（南東から）



写真Ⅱ-2-26 1T西壁 土層堆積状況

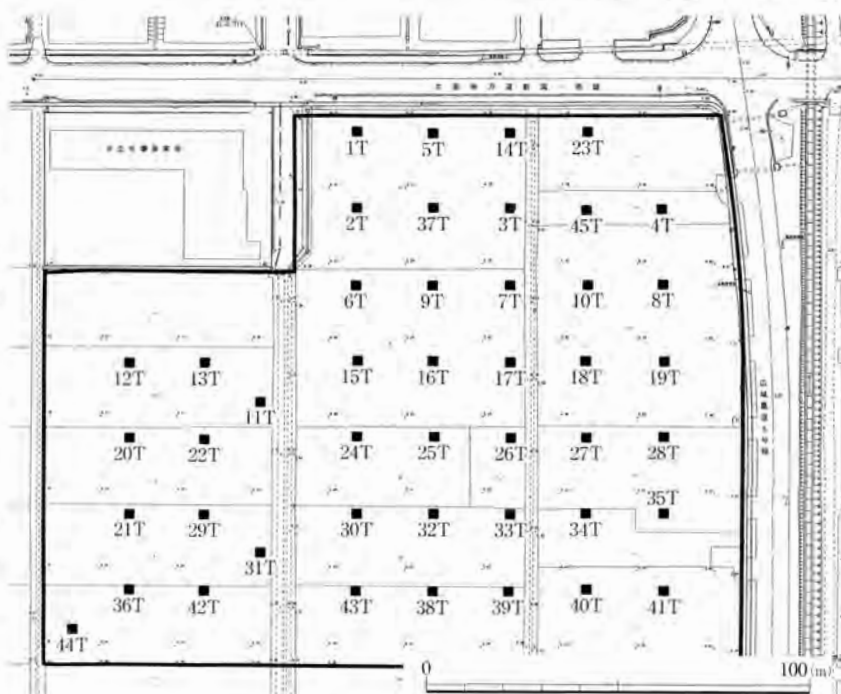
(10) 黒埼南部地区統合小学校建設予定地試掘調査

調査地：木場字大南911-1ほか 調査面積：540.0㎡（調査対象面積23,180.11㎡の約2.3%）

調査期間：平成13年10月9日(火)～15日(月) 調査担当：廣野耕造 調査員：朝岡政康

調査地の概要 当該地は自然堤防上に立地する木場集落の南側、自然堤防と中ノ口川の間広がる沖積地上に位置している。周知の遺跡の範囲内ではないが、西約0.7km地点には木場城跡、南約0.5km地点には釈迦堂遺跡が存在し、自然堤防南側斜面に接するという立地条件と合わせて考えると、未発見の遺跡が存在する可能性があった。

調査に至る経緯 旧黒埼町と新潟市との合併に伴って計画された黒埼南部地区統合小学校建設は、板井・黒鳥・木場の3校の統合を目的とするものである。平成13(2001)年1月には県教委より試掘調査を実施するよう市教委に文書で指示があったため、



図Ⅱ-2-24 試掘坑配置図 (S=1/2,000)

それを受けて市内部で調整した結果、用地取得及び農作物の収穫が終了した同年10月以降に調査を実施することとなった。

調査の方法及び結果 広大な建設予定地を効率的に調査するため、2m×2mの試掘坑を20m間隔を基本として、全体を覆うようまんべんなく配置した。調査した試掘坑の数は最終的に45ヶ所となった(図Ⅱ-2-24参照)。掘削には0.4㎡級のバックホーを使用し、遺構・遺物の有無を確認しながら、深度は地表面より2mまでを目途として慎重に掘り下げた。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

土層は、表土・耕作土(I層)の下に砂(II層)が堆積し、さらにその下は粗粒のシルトと細粒のシルトが互層となっていて(III a~III c層)、調査地周辺がかつて小規模な内水面であったことをうかがわせる結果となっている(図Ⅱ-2-25参照)。また、シルトには植物質を多く含むものも見られることから、湛水期の水深は比較的浅かったと推定される。

遺構・遺物については、排水路跡と考えられる遺構及び近現代の遺物が25Tで検出されたのみである。

まとめ 調査結果からみて、当該地に遺跡が存在する可能性はほとんどなく、小学校建設については問題ないという結論を得た。



図Ⅱ-2-25 土層柱状図 (24T 垂直方向のみ1/20)



写真Ⅱ-2-27
黒埼南部地区統合小学校
建設予定地全景
(東から 矢印付近が木場城)



写真Ⅱ-2-28 土層堆積状況(24T)



写真Ⅱ-2-29 溝状遺構
(25T 西から)

3 整理作業

(1) 東^{ひしがこい}冢遺跡

遺跡及び発掘調査の概要 東冢遺跡は茗荷谷に所在する古墳時代前期（4世紀頃）を中心とした集落遺跡である。平成11（1999）年に新卸売市場建設に先行して行われた試掘・確認調査において新たに発見され、約40,000㎡が周知化されている。この新市場に関連する市道8-273が遺跡に係り、事業の計画変更が不可能であるため、平成12（2000）年に8,875㎡について発掘調査を実施した。

調査の結果、検出された遺構は全て古墳時代前期のものである。主な遺構は竪穴住居跡が3棟、掘立柱建物跡が2棟、井戸が1基、土坑が21基である。出土した遺物の量は土器がテンバコ（30cm×60cm×15cm）で平成11年度調査分をあわせて220箱、石製品が10箱、鉄滓が1箱、種実類など自然遺体が12箱である。木製品が住居の柱根も含め多量に出土している。さらに古墳時代前期の炭化米も多量に出土している。そのほか、微量ながら縄文土器や弥生土器が出土した。

整理作業の年次計画 東冢遺跡の発掘調査は、次のような計画で進められる。

- ①平成12年度：現地調査（発掘調査）と出土品水洗作業。
- ②平成13（2001）年度：注記作業、接合作業、図面・写真整理などの基礎整理作業。各種分析委託業務。
- ③平成14（2002）年度：実測作業、トレース作業、遺物写真撮影、版下作成、原稿作成などの報告書刊行業務。

平成13年度の作業 今年度は以下の作業を整理担当職員1名、整理作業員常時5～6人体制で実施した。整理作業員は臨時職員である。高度に専門的な分野の調査は外部に委託した。

- ①注記作業：土器1点1点に出土地点や出土層位を手書きする作業。
 - ②接合作業：土器や石製品を接合する作業。
 - ③補修作業：接合状況の良くない土器を石膏などで補強し、壊れないようにする作業。
 - ④図面整理作業：現場で実測した各遺構図面等の整理（図面番号付けや遺構番号の付け直し、空中写真測量図面の完成など）。
 - ⑤写真整理作業：現場で撮った写真の整理（調査記録の簡易アルバム作りなど）。
 - ⑥東冢遺跡の立地調査：遺跡から採取したサンプル土について粒度分析を行い、遺跡の立地上の特性を考察する（新潟大学積雪地域災害研究センター高濱・ト部両助教授（職名は当時のもの）に依頼）。
 - ⑦木製品の樹種鑑定、種実同定、炭化米の品種同定・生育条件考察：民間調査会社に委託。
 - ⑧出土炭化物の年代測定（放射性炭素による年代測定）：民間調査会社に委託。
 - ⑨出土品実測作業：遺跡の特徴を示す土器や木製品について実測図を作成する。
- 以上のような作業を進め、発掘調査報告書を平成14年度に刊行する予定である。

(2) 出土品整理・活用事業

新潟市所蔵の出土品等をめぐる状況 新潟市は、現在約1,000㎡以上のスペースを占める出土品及び調査資料を収蔵している。このうち、来年度報告書刊行の東冢遺跡以外の資料については基礎整理は終了しているが、その後活用のための積極的な整理・収蔵は行われていない。また、過去の移動の際に生じた混乱も少なからず残っている。本事業は、長年蓄積されてきたこれらの資料を有効な手法により再整理し、効率的な収蔵を図るものである。

平成13年度の作業 今年度は、的場遺跡・小丸山遺跡について新潟県緊急地域雇用特別基金の補助を受け、委託事業として実施した。なお、緒立遺跡出土遺物の再整理作業については、黒埼町合併以前の事業をそのまま引き継いだため、別事業（黒埼地区埋蔵文化財整理事業）として直営で実施した。

遺物の体系的再整理と収蔵台帳作成 センターで所蔵している遺物は遺物見学や貸出、展示会などに活用されている。しかし、的場遺跡をはじめ1,000箱を超える多量の遺物を所有し、目的の物を探し出すのに時間がかかっていた。そこで、活用頻度の高い報告書や市史・町史等の掲載資料を中心に、体系的に仕分け・編成し、それに基づいた収蔵を行い、かつ利便性を考慮した収蔵台帳を作成することとした。具体的には、下記の点に絞って作業を進めた。

- ①センター職員全員にわかる体系的な整理
- ②収納のコンパクト化
- ③移転・経年変化などにより破損した遺物の補修

以上を踏まえ、今年度はセンター開設以前に調査された的場遺跡と小丸山遺跡を主な対象として再整理を行った。ここで「再整理」と呼んでいる作業は、報告書作成時に行われた既往の整理をもとに、再度系統立てて収納し、また破損している遺物は補修し、台帳を作成するというものである。センターでは整理作業を外部に委託することが初めてだったこともあり、収蔵資料のうち借用・見学の依頼が多いために的場遺跡から着手し、その他は結果を見て今後検討することとした。

基本的に報告書記載のもの及び実測済みの遺物を優先し、そのほか時間をあまり割くことはできなかったが、包含層出土の遺物についても古代の食膳具に絞って、器種・部位別に分類し、一部接合を行った。また、収納の際、テンバコに入りきらない遺物はダンボールに詰め直し、外側に写真（コピー）を貼るなどして確認しやすいようにした。

文字資料のデジタル化 新潟市では墨書（刻書等含む）土器や木簡など合わせて600点ほどを所蔵している。これは県内でも和島村に次ぐ出土量であろう。当初木簡も合わせ、項目内容を一部読みかえる形で入力を行おうとしたが、釈文の長さの違いや分類などにおいて、無理な点があることが各方面から指摘されたため、今回は土器のみを対象とした。最終目標としてデータベースとしての利用を考えているが、文字資料のデータとして必要な項目の検討や、入力規則の決定などに時間がかかり、検索システムの作成は来年度以降に持ち越すこととなった。また、小林昌二氏（新潟大学教授）・相澤央氏（新潟市歴史文化課嘱託）に資料の再検討を依頼し、その結果を入力に反映させたため、報告書とは一部異なる釈文がある。今回入力した件数は小丸山107点、的場330点、緒立20点の合計457点である。

今後の課題 まず、業務委託については、受託業者が雇用した作業員各人の作業精度や効率に差がみられ、思いどおりには進行しなかった。日常的に使われない言葉や道具を用いての作業は、慣れるまでに数ヶ月かかる。スムーズに進めるには数年単位の雇用計画が必要であろう。

再整理については、新たな墨書土器の発見などがあった。食膳具だけではなく、煮炊具等についても今後分類・接合を行う必要があるだろう。

また、文字資料集成については、残りの入力を終了することと、検索システム作成、内容を公開する際の注意点など、問題点が山積みである。今後も作業を継続し、改善を図りたい。

4 出土遺物保存処理

(1) 概要

新潟市出土の木製品をめぐる状況 新潟市は遺跡の大部分が砂丘上あるいは低湿地に立地しており、木製品などでも非常に保存状態が良く残っている。これまでの的場遺跡の浮子や祭祀具などをはじめ、小丸山遺跡や山木戸遺跡、神明社裏遺跡などでも井戸枠などの部材が多量に出土している。現在大型水槽11槽とテンパコ271箱分の遺物を水漬けにして保管している。

センターでは保存処理施設及び技術を持たないため、保存処理が必要な遺物については、外部の専門業者に委託する方法をとっている。保存処理の工程は下記のとおりである。そのうち、□で囲んだ範囲がセンターで行っている業務である。

洗淨 - 実測・写真撮影 … 委託先へ搬出 … 薬品含浸 - 成形・調整 … 遺物返却 … 処理後の写真撮影 - カード記入

過去の保存処理状況 平成5（1993）年度からの的場遺跡の製品類の委託による処理を開始し、平成8（1997）年度から小丸山遺跡・山木戸遺跡の遺物に着手している。また、木製品の場合、1点の実測に1日以上以上の時間がかかることから、平成12（2000）年度以降は実測図の作成を先行し、遺物の状態を把握することを目的として作業を行ってきた。

(2) 今年度の業務内容

平成13（2001）年度は新潟県緊急地域雇用特別基金により山木戸遺跡等出土遺物の実測等の記録、薬品含浸を、また文化庁補助金により緒立遺跡（C地点）出土井戸部材一式と山木戸遺跡出土遺物の薬品含浸処理の委託を実施した。

新潟県緊急地域雇用特別基金による事業内容 今後薬品含浸を行う優先度が高い遺物については実測図の作成、山木戸遺跡14号井戸部材一式については薬品含浸処理、以上の2本立てで業務を委託した。

①遺物実測図作成：山木戸遺跡で出土した井戸は曲物を水溜とし、横棧を組み、縦板を周囲に差しこむ形が多く、井戸1基で部材数が100点を超えるものもある。現在は損傷が目立つ曲物を優先的に処理しているが、井戸の部材であれば1基単位で処理を行い、復元できるようにする必要があることから、板材についても合わせて保存処理をするべきと考えている。そのため、それらの実測図作成を薬品含浸処理の前準備として位置付け、昨年度に引き続き、最も点数が多い山木戸遺跡出土井戸部材の実測を中心として作業を行った。今年度の実測図作成点数は下の表Ⅱ-4-1のとおりである。

土器などと異なり、木製品は保管中でも水系の跡が加工痕のように見えたり、乾き具合によって加工痕が見えにくい場合があったりと扱いの難しいところがある。

②薬品含浸処理：保管中の遺物の中で、最も劣化が進行していた14号井戸の削り抜き枠一式の薬品含浸を委託した。「L」字状の枠を4つ組み合わせた形式で、水溜に曲物を使用していた。処理方法はPEG含浸である。

③遺物保管に伴う作業：4～11月の水温が上昇する間は、遺物に藻が生えてしまうため、月1回程度水替え作業を行った。夏場は2週間ごとに水替えをしないと腐臭を発する遺物もあった。

| 番号 | 遺跡名 | 出土位置 | 小計 |
|-----|-----|------|-----|
| 1 | 山木戸 | SE1 | 2 |
| 2 | 山木戸 | SE2 | 37 |
| 3 | 山木戸 | SE4 | 8 |
| 4 | 山木戸 | SE5 | 2 |
| 5 | 山木戸 | SE6 | 2 |
| 6 | 山木戸 | SE7 | 10 |
| 7 | 山木戸 | SE8 | 27 |
| 8 | 山木戸 | SE11 | 11 |
| 9 | 山木戸 | SK6 | 10 |
| 10 | 山木戸 | SK9 | 57 |
| 11 | 東囲 | SK2 | 13 |
| 12 | 東囲 | SK3 | 1 |
| 13 | 東囲 | SK10 | 4 |
| 14 | 東囲 | SK13 | 5 |
| 15 | 東囲 | ピット | 6 |
| 合 計 | | | 195 |

表Ⅱ-4-1 作成図面一覧
(新潟県緊急地域雇用特別基金による)

また、処理後の遺物は温度28度、湿度70%を超えないように空調を入れた保管室に収蔵している。木製品のうち、曲物などの大型製品類は薄葉で包み、梱包材でくるんだ状態、小型製品類は薄型のテンバコに入れ替え、金属製品類はR P剤を封入して個別にシールパックして保管している。また、6～9月には簡易温湿度計を用いて温湿度環境の把握に努めた。

国県補助による事業内容 平成13年1月から黒埼町と合併したことにより、緒立遺跡（C地点）出土井戸部材一式と、山木戸遺跡出土井戸部材等の保存処理をそれぞれ委託し、実施した。これらはすでに実測図作成及び写真撮影済みのため、委託料が支出の大半をしめた。

①緒立遺跡出土遺物：東都文化財研究所に委託し、実施した。板材の厚みが5 cm以上あり、含浸に長時間要することから、今年度はPEG濃度40%まで行うこととした。

②山木戸遺跡出土遺物：元興寺文化財研究所に委託し、実施した。処理方法はPEG含浸である。下駄などの製品類を実施した。

(3) 今後の展望

繰り返しになるが、新潟市では保存処理が必要な遺物はまだ大量に残っている。これらの中には市指定遺物なども含まれている。

これらを外部委託すると数千万円の費用が必要となる。そこで、今後保存処理を効率的かつ低価格で行うため、外部委託するのは大型品や処理後の成形・調整技術に熟練した技術が必要とされるものに限定する一方、その他の遺物についてはセンター直営で実施可能な処理方法を検討することにより、コスト削減を図りたいと考えている。

5 普及活動

(1) にいがた歴史塾

にいがた歴史塾について 平成12（2000）年度から歴史文化課の事業として始まった「にいがた歴史塾」は、市郷土歴史博物館の平成15（2003）年度開館を控え、市民に歴史文化について学ぶ機会を提供し、理解を深めてもらおうと企画されたものである。

平成13（2001）年度の事業 平成13年度は初めての試みとして公募方式で市民を対象に遺跡体験教室を計画し、下記のように実施した。

日 時：平成13年8月20日(月)・21日(火)

参加人数：23名（成人男性5名、成人女性6名、児童・生徒男子11名、児童・生徒女子1名）

会 場：黒埼荘・埋蔵文化財センター

内 容：（1日目）緒立遺跡・的場遺跡の現地及び出土品の見学

（2日目）埋蔵文化財センターで東園遺跡出土土器の復元作業体験など

事業を振り返って 夏休み期間中だったこともあり、児童・生徒が多かったため、クイズを取り入れるなどの工夫をした。2日目の復元作業体験は参加者には好評であったが、遺物が破損するなど、問題もあった。また、今回の方式では事前準備の労力が大きい割りに対象人員が少ないなど、より多くの市民に対して普及活動を行うという点で今後に課題を残している。平成14（2002）年度以降も内容を工夫し、事業を継続していく予定である。



写真Ⅱ-5-1 的場史跡公園見学（にいがた歴史塾）



写真Ⅱ-5-2 整理作業体験（にいがた歴史塾）

(2) その他

本年度からセンターへの見学や講演、また資料の借用依頼などが増加している（表Ⅱ-5-1～4参照）。これはインターネットの新潟市ホームページに埋蔵文化財センター情報を掲載した効果がたたためと考えられる。今後はこうした市民の需要を積極的に掘り起こし、埋蔵文化財保護行政への理解をより深めていかなければならない。



写真Ⅱ-5-3 センター見学者への説明（NHK文化センター）

| | 平成7年度 | 平成8年度 | 平成9年度 | 平成10年度 | 平成11年度 | 平成12年度 | 平成13年度 |
|------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 見学者数 | 59 | 33 | 9 | 42 | 34 | 40 | 305 |

(単位：人)

表Ⅱ-5-1 センター見学者数の推移

| 年月日 | 見学者・人数 | 備考 |
|---------------------|----------------------|------------|
| H13. 5.16 | NHK新潟文化センター・32名 | |
| H13. 7.24 | 長野県埋蔵文化財センター・2名 | |
| H13. 7.26 | 新津市教育委員会・1名 | |
| H13. 7.27 | 坂井輪地区公民館・13名 | 坂井輪の郷土を語る会 |
| H13. 8.21 | にいがた歴史塾・24名 | |
| H13. 9.18 | 大江山中学校施設見学・36名 | |
| H13.10. 4 | 市立南浜小学校オリエンテーリング・85名 | |
| H13.10.12 | 石山公民館・27名 | ふるさとセミナー |
| H13.11. 6 | 小針健康クラブ・32名 | |
| H13. 4. 1～H14. 2.28 | その他(個人など)・約60名 | |

表Ⅱ-5-2 平成13年度 センターへの見学等一覧

| 演題 | 年月日 | 講演者 | 主催 | 場所 | 参加者数 | 備考 |
|---------------------|-----------|-------|-----------|-----------|------|----------------|
| 遺跡から見える古代の大江山 | H13. 9.21 | 朝岡政康 | 石山公民館 | 石山公民館 | 30名 | 大江山地区の出土品展示も行う |
| 前田遺跡と赤塚地区の原始・古代 | H13.12. 9 | 廣野耕造 | 赤塚郷土研究会 | 末広屋(市内谷内) | 40名 | 前田遺跡出土品展示も行う |
| 文字資料集成データベース作成にあたって | H14. 1.27 | 諫山えりか | 新潟墨書土器検討会 | 新潟大学 | 35名 | |

表Ⅱ-5-3 平成13年度 センター職員が依頼により行った各種講演一覧

| 貸出先 | 貸出期間 | 貸出遺物等 | 備考 |
|-----------|---------------------|--|--------------------|
| 新潟県立歴史博物館 | H13. 6.29～H13. 8.31 | 的場遺跡出土遺物144点、写真パネル2点 | 特別展用 |
| 新潟大学 | H13. 8. 3～H13.10.10 | 的場遺跡出土墨書土器 | 人文学部小林昌二教授に釈文依頼のため |
| ぎょうせい | H13.10.20～H14. 2.28 | 的場遺跡出土2号木簡写真プリント(白黒)1枚 | 上越市史掲載用 |
| 新潟大学 | H13.11.27～H14. 3.31 | 緒立遺跡出土穿孔人骨7点 | 新潟大学学術資料展示室の企画展示用 |
| 新潟大学 | H13.11.20～H14. 2. 1 | 的場遺跡木簡(第1号、2号、5号、6号、7号) ・的場遺跡墨書土器(整理番号11、45、54、78、92、101、108、190、198、244) | 新潟大学学術資料展示室の企画展示用 |

表Ⅱ-5-4 平成13年度 センター収蔵遺物等貸出一覧

Ⅲ 受領図書一覧

(平成13年4月1日～平成14年2月28日受領分)

| 都道府県 | 書名 | 発行機関 |
|---------------------------|---|------------------------|
| 青森 | 十三湊遺跡Ⅵ 青森県埋蔵文化財調査報告書 第312集 | 青森県教育委員会 |
| | 稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ | 〃 |
| | 稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ | 〃 |
| | 大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ | 〃 |
| | 小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ | 〃 |
| | 市内遺跡発掘調査報告書 | 〃 |
| | 新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ | 〃 |
| | 新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ CD-ROM版 | 〃 |
| 福島 | 荒井猫田遺跡(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区) - 第12・13次発掘調査報告 - [郡山南拠点土地区画整理事業関連] | 郡山市教育委員会 |
| | 蒲倉古墳群 - 第7次調査報告 - | 〃 |
| | 小泉山田A遺跡(第4次) - 発掘調査報告 - [国道228号(郡山東バイパス)改築工事関連] | 〃 |
| | 郡山市埋蔵文化財分布調査報告8 | 〃 |
| | 清水台遺跡 - 第12・14・15B・21次調査報告 - | 〃 |
| | 第7回市内遺跡発掘調査成果展 図録 | 〃 |
| | 西前坂遺跡 - 第1次調査報告 - [平和の杜ニュータウン関連] | 〃 |
| | 西前坂遺跡 - 第2次調査報告 - [平和の杜ニュータウン関連] | 〃 |
| | 桃見台遺跡Ⅰ - 第1次調査報告 - | 〃 |
| 守山城跡 - 発掘調査報告書 - [個人宅地造成] | 〃 | |
| 栃木 | 栃木県埋蔵文化財センター通信 やまかいどう No.27 | 財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター |
| | 栃木県埋蔵文化財センター通信 やまかいどう No.29 | 〃 |
| | 研究紀要 第9号 | 栃木県教育委員会 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第121号 鹿沼流通業務団地内遺跡 | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第134号 免の内台遺跡 | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第197号 藤岡神社遺跡(本文編) | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第243号 鶴田A遺跡Ⅱ | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第245号 馬門南遺跡Ⅱ | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第246号 竜地遺跡 | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第247号 古橋Ⅰ・Ⅱ遺跡 | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第249号 那須宮衛関連遺跡Ⅶ | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第251号 大関台遺跡 | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第252号 北の前遺跡 | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第255号 谷向・国谷馬場・中の内・惣宮・鍋小路 | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第256号 上神主・茂原・茂原向原・北原東 | 〃 |
| | 栃木県埋蔵文化財調査報告 第257号 権現山遺跡 百日鬼遺跡 | 〃 |
| 栃木県埋蔵文化財調査報告 第258号 へび塚遺跡 | 〃 | |
| 埋蔵文化財センター年報 第11号(平成13年度版) | 〃 | |
| 群馬 | 保渡田八幡塚古墳 - 史跡保渡田古墳群 八幡塚古墳 整備事業報告書 | 群馬町教育委員会 |
| | 暮坪遺跡発掘調査報告書 | 長野原町教育委員会 |
| 埼玉 | 川本町遺跡調査会報告書 第5集 上本田遺跡Ⅰ(第1分冊概観編・第2分冊資料編) | 川本町教育委員会 |
| 茨城 | 玉里村立資料館 第6号 | 玉里村立資料館 |
| | 平成13年度特別展図録 近現代遺跡、発掘! | 〃 |
| 千葉 | 千葉県文化財センター調査報告 第395集 市原市永藤城跡 - 都市河川改修(広域基幹)工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 - | 財)千葉県文化財センター |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第396集 夷隅町たかもりがだい城跡 - いすみ工業団地埋蔵文化財調査報告 - | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第397集 主要地方道成田松尾線Ⅶ - 芝山町新山遺跡43-9地点・宝馬遺跡1709-37地点 - | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第398集 千葉東南部ニュータウン23 - 千葉市太田法師遺跡2(縄文時代以降) - | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第399集 主要地方道松戸野田線住宅地関連埋蔵文化財調査報告書 - 流山市三輪野山貝塚・宮前・道六神・八幡前 - | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第400集 船橋市新山東遺跡 - 前原団地建替事業関連埋蔵文化財調査報告書 - | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第401集 羽計清水西遺跡 - 一般県道下総橋停車場東城線埋蔵文化財調査報告書 - | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第402集 千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書7 - 松尾町・横芝町四ツ塚遺跡・松尾町千神塚群 - | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第403集 千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書8 - 松尾町中谷遺跡 - | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第404集 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XⅣ - 一鉄田甚兵衛山西遺跡(空港No.16遺跡) - | 〃 |

| 都道府県 | 書名 | 発行機関 |
|------|---|-----------------------------|
| 千葉 | 千葉県文化財センター調査報告 第405集 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X V - 天神峰最上遺跡(空港No.64遺跡) - | 財)千葉県文化財センター |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第406集 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X VI - 十余三稲荷峰東遺跡(空港No.66遺跡) - | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第407集 習志野市津田沼二丁目遺跡-習志野郵便局・習志野津田沼宿舎新築工事埋蔵文化財調査報告書- | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第408集 市川市国府台遺跡13地点-国立精神・神経センター国府台病院施設増築埋蔵文化財調査報告書- | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第409集 東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書7-木更津市芝野遺跡- | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第410集 東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書8-袖ヶ浦市椿古墳群- | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第411集 東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書9-袖ヶ浦市山谷遺跡- | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第412集 君津市寺ノ代遺跡-県単道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書- | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第413集 富津市烏井戸遺跡-富津都市計画道路事業3・3・3号二間塚大堀線埋蔵文化財調査報告書- | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第414集 木更津市四宝塚遺跡-木更津(市)長須賀宿舎埋蔵文化財調査報告書- | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第415集 野田市南下夕村遺跡-主要地方道我孫子関宿線埋蔵文化財調査報告書- | 〃 |
| | 千葉県文化財センター調査報告 第416集 木更津市四房遺跡-県立木更津高等学校第2体育館埋蔵文化財調査報告書- | 〃 |
| | 千葉県文化財センター年報 No.26-平成12年度- | 〃 |
| 東京 | 葛西城X X 葛飾区遺跡調査会調査報告 第47集 | 葛飾区教育委員会 |
| | 正福寺遺跡Ⅱ 葛飾区遺跡調査会調査報告書 第48集 | 〃 |
| | 平成11年度葛飾区埋蔵文化財調査年報 | 〃 |
| 山梨 | 久保之沢遺跡 | 甲府市教育委員会 |
| | 甲府城下町遺跡Ⅰ | 〃 |
| | 米草遺跡 | 〃 |
| | 武田城下町遺跡Ⅰ | 〃 |
| | 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第31集 新蔵町3丁目遺跡 徳島保健所地点 | 〃 |
| | 横根・桜井積石塚古墳群調査報告書Ⅱ | 〃 |
| 長野 | 下田村文化財調査報告書 第33号 下田村曲谷E遺跡発掘調査報告書 | 下田村教育委員会 |
| | お供平遺跡Ⅱ | 長野県埋蔵文化財センター |
| | 長野県埋蔵文化財センター紀要8 | 〃 |
| 新潟 | 研究紀要 第3号 | 財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 |
| | 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成12年度 | 〃 |
| | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第101集 一般国道17号浦佐バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 大久保遺跡 | 〃 |
| | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第102集 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅳ 川根谷内墓所遺跡 | 〃 |
| | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第103集 国営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡 | 〃 |
| | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第104集 国道116号埋蔵文化財調査報告書 梯子谷竈跡 | 〃 |
| | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第105集 上越市・木田地区発掘調査報告書Ⅵ 木田遺跡 | 〃 |
| | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第106集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅰ 松影A遺跡 | 〃 |
| | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第107集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅰ 正尺A遺跡 | 〃 |
| | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第99集 一般国道49号堀越歩道工事関係発掘調査報告書 堀越館跡 | 〃 |
| | 相川町埋蔵文化財調査報告書 第3 佐渡金山遺跡(佐渡奉行所跡)(陣屋・役所・役宅・御金蔵・寄勝場) | 相川町教育委員会 |
| | 相川町埋蔵文化財調査報告書 第5 佐渡金山遺跡(後藤役所) | 〃 |
| | 荒川町埋蔵文化財発掘調査報告 第1集 坂町宮ノ腰B遺跡(1993) | 荒川町教育委員会 |
| | 荒川町埋蔵文化財発掘調査報告 第2集 古谷地B遺跡・寺川遺跡・赤井遺跡(1994) | 〃 |
| | 荒川町埋蔵文化財発掘調査報告 第3集 高柳A遺跡・高柳B遺跡・名割遺跡(1996) | 〃 |
| | 荒川町埋蔵文化財発掘調査報告 第4集 馬場館跡・屋敷添遺跡(1998) | 〃 |
| | 荒川町埋蔵文化財発掘調査報告 第5集 元山竈跡群(1999) | 〃 |
| | 板倉町埋蔵文化財調査報告 第2集 南原遺跡-板倉北部宅地造成事業に伴う発掘調査報告書- | 板倉町教育委員会 |
| | 江島神社遺跡・大二反遺跡発掘調査報告書 | 柿崎町教育委員会 |
| | 柏崎市の遺跡X 柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第36集 | 柏崎市教育委員会 |
| | 十三本塚北 柏崎埋蔵文化財調査報告書 第37集 | 〃 |
| | 宮之下遺跡群 柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第35集 | 〃 |
| | 第16回天領ゼミナール記録集 | 金井町教育委員会生涯学習課内 全国天領ゼミナール事務局 |
| | 鬼倉遺跡発掘調査報告書 | 加茂市教育委員会 |
| | 平成十二年度加茂市内遺跡確認調査報告書 | 〃 |
| | 神林村埋蔵文化財調査報告書 第9 衣田遺跡・道上遺跡 | 神林村教育委員会 |

| 都道府県 | 書名 | 発行機関 | |
|--|--|--|-------------------------|
| 新潟 | 神林村埋蔵文化財調査報告書 第11 里本庄遺跡群 内御堂遺跡・大木戸遺跡・里本庄B遺跡・光明寺遺跡 | 神林村教育委員会 | |
| | 神林村埋蔵文化財調査報告書 第12 城田遺跡・弘地遺跡 | 〃 | |
| | 越路町文化財報告書 第23輯 北河内の塚発掘調査報告書 | 越路町教育委員会 | |
| | 塩沢町文化財報告書 第19輯 来清東遺跡 - 県道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 - | 塩沢町教育委員会 | |
| | 上江保倉地区ほ場整備事業関連発掘調査報告書 (八幡遺跡・前田遺跡) | 上越市教育委員会 | |
| | 下モ原 I 遺跡 | 津南町教育委員会 | |
| | 正面ヶ原D遺跡 | 〃 | |
| | 燕市埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 三角田遺跡 | 燕市教育委員会 | |
| | 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集 道下南遺跡発掘調査概要報告 | 十日町市教育委員会 | |
| | 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第19集 平成12年度十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 | 〃 | |
| | 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集 道端A・B遺跡発掘調査概要報告書 | 〃 | |
| | 平成12年度文化財課 年報5 | 〃 | |
| | 博物館だより 第7号 | 豊栄市博物館 | |
| | 馬高遺跡 - 史跡 馬高・三十稲場遺跡 環境整備事業に伴う試掘調査概報 - | 長岡市教育委員会 | |
| | 瓜割遺跡 - 土地区画整理事業に伴う発掘調査 - | 〃 | |
| | 五斗田遺跡 - 発掘調査概報 - | 〃 | |
| | 長岡市立科学博物館研究報告 第36号 | 長岡市立科学博物館 | |
| | 中郷村遺跡詳細分布調査報告書 | 中郷村教育委員会 | |
| | 中条町埋蔵文化財調査報告書 第21集 下町・坊城遺跡V | 〃 | |
| | 中条町埋蔵文化財調査報告書 第22集 船戸桜田遺跡2次調査 | 〃 | |
| | 平成12年度市町村文化行政の現状 | 新潟県教育庁文化行政課文化係 | |
| | 新潟県考古学会10周年記念講演会の記録 | 新潟県考古学会 | |
| | 新潟考古 第12号 | 〃 | |
| | 新潟大学考古学研究室調査研究報告 3 | 新潟大学人文学部考古学研究室 | |
| | 井ノ町遺跡発掘調査報告書 県営ほ場整備事業浜忠地区に伴う発掘調査 | 西山町教育委員会 | |
| | 畠田遺跡発掘調査報告書 県営ほ場整備事業北野地区に伴う発掘調査 | 〃 | |
| | 滝脇城跡発掘調査報告書 滝脇城跡 | 真野町教育委員会 | |
| | 県営ほ場整備事業 (村上山辺り地区) 関連発掘調査報告書 大関上野遺跡・山崎遺跡 | 村上市教育委員会 | |
| | 和島村埋蔵文化財調査報告書 第10集 県営ほ場整備事業 (桐島桐原地区) に伴う埋蔵文化財調査報告書 奈良崎遺跡 | 和島村教育委員会 | |
| | 富山 | 安居窯跡群発掘調査レポート | 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 |
| | | 紀要 富山考古学研究 第4号 | 〃 |
| | | 北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告 - 竹ノ内II遺跡 (長野地区)・柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡 | 〃 |
| 埋蔵文化財調査概要 - 平成12年度 - | | 〃 | |
| 埋蔵文化財年報(12) 平成12年度 | | 〃 | |
| 吉野遺跡発掘調査報告書 | | 魚津市教育委員会 | |
| 高岡市埋蔵文化財報告書 第4冊 須田藤の木遺跡調査報告 | | 高岡市教育委員会 | |
| 高岡市埋蔵文化財報告書 第5冊 間尽遺跡調査報告 | | 〃 | |
| 高岡市埋蔵文化財報告書 第6冊 頭川城ヶ平横穴墓群調査報告Ⅲ | | 〃 | |
| 高岡市埋蔵文化財報告書 第45冊 市内遺跡調査概報X | | 〃 | |
| 高岡市埋蔵文化財報告書 第46冊 戸出古戸出遺跡調査概報 | | 〃 | |
| 高岡市埋蔵文化財報告書 第47冊 市内遺跡調査概報X I | | 〃 | |
| 高岡市埋蔵文化財報告書 第48冊 石塚江之戸遺跡調査概報 | | 〃 | |
| 富山県埋蔵文化財センター年報 平成11年度 | | 富山県埋蔵文化財センター | |
| 埋文とやま 第75号 | | 〃 | |
| 富山県舟橋村 利田横枕遺跡発掘調査報告 - 送電線鉄塔建設工事に伴う発掘調査報告 - | | 舟橋村教育委員会 | |
| 仏生寺城跡発掘調査報告 | | 〃 | |
| 船橋村埋蔵文化財調査報告書 6 | 〃 | | |
| 石川 | 財団法人埋蔵文化財センター年報 (平成11年度) | 財団法人埋蔵文化財センター | |
| | 石川県埋蔵文化財情報 第4号 | 〃 | |
| | 石川県埋蔵文化財情報 第5号 | 〃 | |
| | 石川県埋蔵文化財情報 第6号 | 〃 | |
| | いしかわの遺跡 第7号 | 〃 | |
| | いしかわの遺跡 第8号 | 〃 | |
| | いしかわの遺跡 第9号 | 〃 | |
| | 加賀市松山C遺跡 - ふるさと支援道路整備工事 (主要地方道山中伊切線) に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 | 〃 | |
| | 金沢市藤江B遺跡 I 金沢西部地区土地区画整理事業にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書 8 | 〃 | |
| | 金沢市藤江B遺跡 II 金沢西部地区土地区画整理事業にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書 9 | 〃 | |
| | 金沢市藤江B遺跡 III 金沢西部地区土地区画整理事業にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書 10 | 〃 | |
| | 金沢市藤江C遺跡 I 金沢西部地区土地区画整理事業にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書 2 | 〃 | |

| 都道府県 | 書名 | 発行機関 |
|-------------------------------|--|--------------------|
| 石川 | 小松市ブッシュヨウジヤマ古墳群 一般国道360号特定交通安全施設等整備（二種）事業に係る発掘調査報告書 | 財石川県埋蔵文化財センター |
| | 三社町遺跡 北陸新幹線西石動信号場・金沢間建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 | 〃 |
| | 志賀町甘田タイ遺跡 一農用地総合整備事業（羽咋区域甘田工区）に係る埋蔵文化財調査一 | 〃 |
| | 田鶴浜町三引E遺跡・三引F遺跡 一般国道470号線（能越自動車道）改良工事及び主要地方道水見田鶴浜線建設工事に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書（Ⅰ） | 〃 |
| | 田鶴浜町三引遺跡Ⅰ（上層編） 一般国道470号線（能越自動車道）改良工事及び主要地方道水見田鶴浜線建設工事に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書（Ⅱ） | 〃 |
| | 七尾市赤浦やまあと遺跡 県営岡場整備事業西湊地区（第1工区）に係る発掘調査報告書 | 〃 |
| | 発見！古代のお触れ書き | 〃 |
| | 松任市乾遺跡発掘調査報告書 A・C区下層編 | 〃 |
| | 史跡 須曾蝦夷穴古墳Ⅱ 一発掘調査報告書一 | 能登島町教育委員会 |
| | 八ヶ崎カミノマエ・カマヤノシヨド遺跡発掘調査報告書 | 〃 |
| 静岡 | 特別史跡登呂遺跡発掘調査概要報告書Ⅱ 静岡市埋蔵文化財調査報告57 | 静岡市教育委員会 |
| | ふちゅ〜る No.9 平成11年度静岡市文化財年報 | 〃 |
| | 袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書2 掛之上遺跡Ⅶ | 袋井市教育委員会 |
| 愛知 | 城山 キャッスルヒルカントリークラブ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | 一宮町教育委員会 |
| | 神明遺跡Ⅱ（2冊分）豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集 | 豊田市教育委員会 |
| | 郷土資料館だより 36号 | 〃 |
| | 三味線塚古墳 豊田市埋葬文化財発掘調査報告書 第18集 | 〃 |
| | 豊田市郷土資料館だより No.37 | 〃 |
| | 豊田市郷土資料館だより No.38 | 〃 |
| | 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第16集 不動1・2号墳 山ノ神古墳 神明社古墳 | 〃 |
| | 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第19集 新金山遺跡 | 〃 |
| | 豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第55集 吉田城址（Ⅳ） | 〃 |
| | 豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第56集 奈木4号墳柳生川南部地区試掘調査 | 〃 |
| | 豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第57集 高井遺跡（Ⅱ）・荒木2号墳・下角庵遺跡 | 〃 |
| | 豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第58集 本郷遺跡（Ⅰ） | 〃 |
| | 豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第5集 岩屋下古窯 | 〃 |
| | 平成十二年度三ツ山古墳調査概要（Ⅲ） | 〃 |
| | 名古屋市文化財調査報告書49 埋蔵文化財調査報告書36 | 名古屋市教育委員会 |
| | 名古屋市文化財調査報告書50 埋蔵文化財調査報告書37 | 〃 |
| | 名古屋市文化財調査報告書51 埋蔵文化財調査報告書38 | 〃 |
| | 名古屋市文化財調査報告書52 埋蔵文化財調査報告書39 | 〃 |
| | 特別展図録 はじまりのムラーなごやに稲作が伝わった頃一 | 名古屋市見晴台考古資料館 |
| | 名古屋市見晴台考古資料館研究紀要 第3号 | 〃 |
| 見晴台教室'00 | 〃 | |
| 見晴台考古資料館年報18 2000（平成12）年度事業報告 | 〃 | |
| 大阪 | 古墳時代前・中期における埋葬人骨と親族関係 | 大阪大学大学院文学研究科考古学研究室 |
| | 侍兼山遺跡Ⅲ | 〃 |
| | 勝福寺古墳測量調査報告 | 〃 |
| | 海塚遺跡発掘調査概要 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第50集 | 貝塚市教育委員会 |
| | 貝塚市遺跡群発掘調査概要22 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第54集 | 〃 |
| | 貝塚市遺跡群発掘調査概要23 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第58集 | 〃 |
| | 貝塚市内遺跡発掘調査概要 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第56集 | 〃 |
| | 加治・神前・畠中遺跡発掘調査概要9 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第57集 | 〃 |
| | 沢共同墓地遺跡発掘調査概要 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第52集 | 〃 |
| | 沢城跡発掘調査概要 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第51集 | 〃 |
| | 津田北遺跡発掘調査報告書 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第53集 | 〃 |
| 京都 | 城陽市埋蔵文化財調査報告書 第39・40・41集 | 城陽市教育委員会 |
| 奈良 | 天理大学考古学研究室紀要 古事 第5冊 | 理大学歴史文化学科考古学専攻研究室 |
| | 奈良市埋蔵文化財センター紀要1998 | 奈良市教育委員会 |
| | 奈良市埋蔵文化財センター紀要1999 | 〃 |
| | 奈良市埋蔵文化財センター紀要2000 | 〃 |
| | 奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成10年度 | 〃 |
| | 奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成11年度 | 〃 |
| 岡山 | 足守藩武家屋敷跡・Ⅱ | 岡山市教育委員会 |
| | 岡山市文化財調査の概要（平成11年度） | 〃 |
| | 三手向原遺跡 | 〃 |
| | 史跡岡山城跡本丸下の段発掘調査報告 | 〃 |
| 広島 | 尾道市埋蔵文化財調査報告書 第29集 尾道遺跡一市街地遺跡発掘調査概要一1999 | 尾道市教育委員会 |
| 山口 | あやらぎ 下関市立考古博物館 博物館だより No.5 | 下関市立考古博物館 |
| | 弥生時代・日本海地域の交流 平成13年度企画展図録 | 〃 |

| 都道府県 | 書名 | 発行機関 |
|------|--|---------------|
| 徳島 | 徳島県埋蔵文化財センター調査概報 第3集 阿讃山脈東南縁の古墳群 | 財徳島県埋蔵文化財センター |
| | 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第30集 新蔵町1丁目遺跡 企業局総合管理事務所地点Ⅱ | 〃 |
| | 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第31集 新蔵町3丁目遺跡 徳島保健所地点 | 〃 |
| | 徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol・11 1999年度 | 〃 |
| 福岡 | 鶴木横道遺跡 大刀洗町文化財調査報告書 第21集 | 大刀洗町教育委員会 |
| 佐賀 | 佐賀市文化財調査報告書 第119集 野中遺跡(1・2区の調査) | 佐賀市教育委員会 |
| | 佐賀市文化財調査報告書 第120集 石土井遺跡Ⅰ-1区の調査- | 〃 |
| | 佐賀市文化財調査報告書 第121集 増田遺跡Ⅴ-7区の調査- | 〃 |
| | 佐賀市文化財調査報告書 第122集 佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書-1997・1998年度- | 〃 |
| | 佐賀市文化財調査報告書 第123集 上岸川遺跡-1区の調査- | 〃 |
| | 佐賀市文化財調査報告書 第124集 徳永遺跡群Ⅳ・徳永遺跡10区-佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書10- | 〃 |
| | 佐賀市文化財調査報告書 第125集 徳永遺跡群Ⅴ 徳永遺跡12区-佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書11- | 〃 |
| | 佐賀市文化財調査報告書 第126集 上和泉遺跡群Ⅱ 上揚遺跡2区-佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書12- | 〃 |
| | 鎮西町文化財発掘調査報告書 第19集 長宗我部元親陣跡 | 鎮西町教育委員会 |
| 熊本 | 池辺寺跡Ⅲ 平成10・11年度発掘調査報告書 | 熊本市教育委員会 |
| | 神水遺跡Ⅳ 第5・18次調査区発掘調査報告書 | 〃 |
| | 熊本市埋蔵文化財調査年報 第4号 平成11年度 | 〃 |
| | 熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 平成11・12年度 | 〃 |
| | 特別史跡熊本城跡石垣保存修理・発掘調査報告書 | 〃 |

平成13(2001)年度
新潟市埋蔵文化財調査年報

発行日 平成14年3月28日

発行 新潟市埋蔵文化財センター
〒950-3101 新潟市太郎代2554番地
電話・FAX 025(255)2006
電子メール maizobunkazai@city.niigata.niigata.jp
ホームページ http://www.city.niigata.niigata.jp/info/rekisi_bunka/mc1.htm

印刷 (有)太陽印刷所
〒950-0985 新潟市和合町2丁目4番18号
電話 025(382)7651
